

平成 24 年度

川崎市立小学校 学習状況調査 報告書

川崎市教育委員会・川崎市立小学校長会

はじめに

川崎市教育委員会
教育長 渡邊 直美

川崎市立小学校学習状況調査は、かわさき教育プランの「学校の教育力を高め、確かな学力を育成する」という重点施策に則り、平成 17 年度より始まりました。本年度は 8 回目の実施となり、第 5 学年の児童を対象に 5 月 8 日に実施されました。

本調査には大きく三つの目的があります。一つ目は、学校や教員が子どもたちの学習状況を正確に把握し、指導方法や教育課程の検証・改善を図ることであり、二つ目は、子どもと保護者に学習状況を伝え、一人ひとりの子どもの学習に対する課題を明確にし、子どもが学習に取り組む態度や家庭での学習のあり方を改善することに役立てることです。そして、三つ目は、川崎市教育委員会が各学校の教育課題を正確に把握することにより、それぞれの学校を効果的・効率的に支援することを目的としています。

そのため、川崎市教育委員会では、調査の結果を報告書にまとめ、各学校における児童の学習指導の検証・改善に役立てることができるようにしています。教科の調査結果の概要については、設問ごとのねらい、正答率、解答の状況及び今後の学習指導において参考になる事柄を記載しています。また、学習意識調査については、子どもの生活や学習への意識及び実態を設問ごとにグラフに表しています。さらに、一部の設問については、3 年間の経年比較やクロス集計による相関関係の分析を行っております。

各学校におかれましては、個々の設問等に注目して学習指導上の課題を把握、分析し、児童一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上、思考力・判断力・表現力等を向上させるための授業改善に本報告書をご活用いただきたいと思いますと考えております。

最後になりましたが、調査の運営・実施にあたりましてご尽力いただきました小学校学習状況調査研究会議をはじめとする小学校長会の皆様に厚く御礼申し上げます。

学習状況調査の実施にあたって

川崎市立小学校長会
会長 山田 雅太

学習指導要領では、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことが明示されています。各学校では、このねらいの実現をめざし、教育活動の工夫・改善に努めていることと存じます。

川崎市立小学校学習状況調査は、かわさき教育プランに基づき、平成 17 年度より 5 年生を対象に国語、算数及び学習意識について実施しています。目的については、各学校が一人ひとりの子どもの学力や学習状況を的確に把握し、教育課程の編成や指導方法のあり方についての検証・改善に役立てること、子どもと保護者に学習状況を伝え、家庭での学習習慣の確立に役立てること等が挙げられます。そのため、5月に実施し、夏季休業前に結果を返却することで、その後の各学校の教育課程の改善や家庭での学習の見直し等に生かせるようにしています。

また、調査問題の作成につきましては、過去の問題と関連したものを出題することによって、解答傾向の推移を把握できるようにしています。報告書では、各設問を分析、考察し、今後の指導にあたっての改善点等をまとめております。各学校におかれましても、自校の状況を把握し教育課程の編成、日々の授業、学習活動等の検証・改善の資料としてご活用ください。

最後に、問題作成及び結果の分析に取り組まれた川崎市立小学校国語教育研究会、算数教育研究会の皆様、厚く御礼申し上げます。また、ご尽力いただきました川崎市教育委員会・川崎市総合教育センター並びに小学校学習状況調査研究会議の皆様、深く感謝申し上げます。

目 次

I 調査の概要

1. 調査の目的	5
2. 調査の内容	5
3. 調査の対象	5
4. 調査実施日及び調査対象教科・人数	5
(1) 調査実施日	5
(2) 調査対象教科・人数	5

II 調査結果の概要

1. 国語	6
(1) 作問にあたって	6
(2) 領域ごとの結果	6
(3) 出題・観点等一覧	7
(4) 大問ごとの分析と考察	8
(5) 今後の指導にあたって	21
2. 算数	24
(1) 作問にあたって	24
(2) 領域ごとの結果	24
(3) 出題・観点等一覧	25
(4) 大問ごとの分析と考察	26
(5) 今後の指導にあたって	47
3. 生活や学習についてのアンケート	50
調査の概要	50
調査結果と分析	51
単純集計	51
クロス集計	59
資料 調査結果集計表	68

III 資料編

国語（問題用紙・聞き取り問題原稿・解答用紙）

算数（問題用紙・解答用紙）

I 調査の概要

1. 調査の目的

全市的な規模で児童の学習状況を調査することにより、学習指導上の問題点及び改善点を明らかにする。その結果を、各学校においては、今後の学習指導法の改善や教育課程編成の工夫等、児童の基礎学力の向上に役立てる。

2. 調査の内容

○国語・算数

調査の目的に基づき、学習指導要領に定める第4学年までの内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当な項目について調査を実施した。

○学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

児童の学習や生活に対する意識等について明らかにするために、児童を対象とする意識調査を実施した。

3. 調査の対象

市内全市立小学校の第5学年の児童

4. 調査実施日及び調査対象教科・人数

(1) 調査実施日

平成24年5月8日（火）

(2) 調査対象教科・人数

小学校第5学年

国語	11,384人
算数	11,385人
生活や学習についてのアンケート	11,390人

II 調査結果の概要

1. 国語

(1) 作問にあたって

- ① 基礎学力の向上に資するという本調査の目的に鑑み、基礎・基本の内容に限定して出題するよう努めた。
- ② 国語科の学習指導要領においては、目標・内容などが2学年ずつまとめて示されている。したがって本調査では主に第3学年及び第4学年で指導する内容の中から出題している。
- ③ 国語科の領域構成は「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の3領域1事項からなっている。本調査の作問にあたっては、児童の学力の状況をなるべく広い範囲において把握していくために、すべての領域から出題することとした。しかしながら、ペーパーテストによる調査で測定することのできる学力は言語能力の中でもきわめて限られた部分に過ぎないことを踏まえ、「話すこと・聞くこと」の領域のうちの「話すこと」は、出題していない。また、「読むこと」の領域の中でも、音読にかかわる内容は出題できないなど、作問の内容もきわめて限定的なものにならざるを得ない。本調査は、あくまでも学力の一部を測定するものであることをご理解いただきたい。
- ④ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については基本的には各領域の学習を通して指導していくこととなっている。しかしながら、本調査では学力の状況を把握し易くするため、大問2及び大問3において、他領域とは独立した形で出題している。

(2) 領域ごとの結果

領域		該当する問題番号	正答率(%)
A	話すこと・聞くこと	1 (1) (2) (3)	84.2
B	書くこと	6 7 ①②③④	66.6
C	読むこと	4 (1) (2) (3) (4) (5)	63.8
		5 (1) (2) (3) (4) (5)	
D	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2 (1) ①②③④	76.4
		(2) ①②③④	
		3 (1) (2) (3) (4)	

(3) 出題・観点等一覧 (次ページ)

出題・観点等一覧

問題番号				正答	観点			問題の内容	領域	出題のねらい	学習指導要領	正答率(%)			
シリアル No.	大問	中間	小問	(選択式→番号、記述式→言葉)	話す・聞く能力	書く能力	読む能力						言語についての知識・理解・技能		
1	1	(1)		3	◎				①話の内容を聞き取る	①話すこと・聞くこと	話の中心に気をつけて、発表を聞き取ることができる。	A(1)エ	87.9		
2		(2)		4	◎			話の中心に気をつけて、発表を聞き取ることができる。			A(1)エ	91.8			
3		(3)		2	◎			話の中心に気をつけて聞き、話し方の工夫を聞き取ることができる。			A(1)オ	72.8			
4	2	(1)	①	さんか				◎	②漢字を読む	④伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	第四学年配当漢字を読むことができる。	伝国(1)ウ(イ)	96.9		
5			②	しょうひ				◎			第四学年配当漢字を読むことができる。	伝国(1)ウ(イ)	87.8		
6			③	くらい				◎			第四学年配当漢字を読むことができる。	伝国(1)ウ(イ)	72.0		
7			④	かた(める)				◎			第四学年配当漢字を読むことができる。	伝国(1)ウ(イ)	96.6		
8		(2)	①	洋服				◎			第三学年配当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウ(イ)	57.9		
9			②	海岸				◎			第三学年配当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウ(イ)	58.1		
10			③	氷				◎			第三学年配当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウ(イ)	77.0		
11			④	悲しい				◎			第三学年配当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウ(イ)	77.6		
12		3	(1)		2			◎			④言葉の学習	④伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	主語・述語の関係を理解している。	伝国(1)イ(キ)	63.8
13			(2)		3			◎					接続語を理解している。	伝国(1)イ(ク)	78.0
14			(3)		2			◎					国語辞典を利用して調べることができる。	伝国(1)イ(カ)	67.6
15	(4)			1			◎	慣用句の意味を理解している。	伝国(1)ア(イ)	83.5					
16	4	(1)		1			◎	⑤物語の内容を読み取る	③読むこと	叙述を基に、登場人物の様子を読み取ることができる。	C(1)ウ	90.3			
17		(2)		小さな温かいもの (8字)			◎			叙述を基に、場面の様子を読み取ることができる。	C(1)ウ	56.5			
18		(3)		3			◎			叙述を基に、登場人物の気持ちを読み取ることができる。	C(1)ウ	73.5			
19		(4)		2			◎			叙述を基に、登場人物の気持ちの移り変わりを読み取ることができる。	C(1)ウ	77.8			
20		(5)		4			◎			叙述を基に、場面の移り変わりを読み取ることができる。	C(1)ウ	50.5			
21	5	(1)		4			◎	⑥説明文の内容を読み取る	③読むこと	目的に応じて、細かい点に注意して文章を読むことができる。	C(1)エ	80.7			
22		(2)		1			◎			目的に応じて、内容を大きくまとめながら文章を読むことができる。	C(1)エ	48.6			
23		(3)		2			◎			目的に応じて、細かい点に注意して文章を読むことができる。	C(1)エ	60.6			
24		(4)		3			◎			目的に応じて、段落相互の関係を考えながら文章を読むことができる。	C(1)イ	56.9			
25		(5)		(例)夜の九時ごろまで明るい照明をつけていた(19字)			◎			目的に応じて、内容を大きくまとめながら文章を読むことができる。	C(1)エ	42.4			
26	6			①イ、②エ、③ア、④ウ (完答)			◎	⑦はがきの表書きを書く	②書くこと	はがきの表書きに必要な事柄や順序を理解している。	B(2)エ	55.1			
27	7	①		(6行以上10行以内=101~200字で書く)			◎	⑧作文	②書くこと	目的に応じて、適切に書くことができる。	B(1)ア	70.6			
28		②		(2段落構成で書く)			◎			段落と段落の続き方に注意して書くことができる。	B(1)イ	55.2			
29		③		(「しようかいいたい、楽しみにしている行事」について書く)			◎			書く必要のある事柄を収集したり選択したりして書くことができる。	B(2)ウ	74.4			
30		④		(「どのようなところを楽しみにしているのか」を書く)			◎			自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えながら具体的に書くことができる。	B(1)ウ	77.9			

【観点】◎…主たる観点

※いずれも3・4年

(4)大問ごとの分析と考察

大問 1

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
1		(1)			1	1	3.5
					2	2	0.7
				○	3	3	87.9
					4	4	7.2
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答（無記入の場合）	0	0.7
2	1	(2)			1	1	4.2
					2	2	2.5
					3	3	0.7
				○	4	4	91.8
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答（無記入の場合）	0	0.7
3		(3)			1	1	15.9
				○	2	2	72.8
					3	3	7.8
					4	4	2.3
					上記以外の解答	9	0.2
					無解答（無記入の場合）	0	1.0

[2] 出題のねらい

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「話すこと・聞くこと」の目標は、以下の通りである。

「相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。」

この問題では「クラブ紹介集会で代表者がクラブ紹介を行い、質問をする」という言語活動に取り組む場面を取り上げ、「目的に応じ、話の中心に気を付けて聞く能力」を問うこととした。

(1)は、「家庭科クラブの活動内容」の紹介から、「どのような内容」を「どのような期間で」活動しているか聞き取る問題である。家庭科クラブの代表の話した内容を的確にとらえ、話の中心に気を付けて聞くことができたかを問うている。

(2)も、話の中心に気を付けて、聞くことができたかを問う問題である。質問者の質問とそれに対する代表者の回答を聞き取るのができたかを問うている。

(3)は、話し手の話の組み立て方の工夫に気を付けて聞くことができたかを問うものである。

児童にとって、放送問題を聞いて問いに答えるという経験は少ないだろうと予想し、どの児童も経験している「クラブ活動」の活動内容の紹介場面を想定して出題した。

また、大事なことは一度で聞き取る習慣を身に付けさせたいという考えから、放送は繰り返さないことにした。

[3] 解説

「聞くこと」の平均正答率は 84.2%であり、(1) の正答率が 87.9%、(2) は 91.8%、(3) は 72.8%と、どの問題においても良好であった。

(1) は、話の中心に気を付けて聞く能力を問うものである。正答率が高かった理由の一つとしては、問題の冒頭において、ナレーターが「家庭科クラブがどのような活動をしているのか、メモをとりながら聞きましょう。」とメモをとる観点をあらかじめ与えていることが挙げられる。

この話は「これからクラブ活動を決めるために『クラブ紹介』を聞く」という場面を設定し、家庭科クラブの代表が活動内容の紹介を行った後、質問を募り、2人の質問者からの質問にそれぞれ答えるといった組み立てになっている。児童の多くが、「家庭科クラブの活動内容」や「質問とその回答」を、その都度的確にメモして、話の流れを把握しながら聞いていたことが伺える。

(2) も、話の中心に気を付けて、聞くことができたかを問う問題である。代表者が紹介した活動内容という基本的な内容に加え、質問者の質問とそれに対する代表者の回答を聞き取ることができないと正解できない問題である。代表者は、「できあがったらみんなで食べます。」「作ったものは家に持ち帰って使っています。」と選択肢1、2とは反対の活動の様子を紹介している。その後、質問者が「家庭科クラブに入って良かったこと」と、「料理をしたことがなくとも入れるか」の2つの質問をした。ここで、「身の回りの物を大切にしようになった」と、「先生や友だちが教えてくれるので、初めての人でも大丈夫だ」ということを聞き取れたかがポイントとなってくる。

(3) は、話し手の話の組み立て方の工夫に気を付けて聞くことができたかを問うものである。代表者は家庭科クラブに入って良かったことが2つあるとした上で、「一つ目は…、二つ目は…」と紹介している。よって、選択肢2の「話すことがらの数を示したうえで、それぞれのことがらを順に話していた。」が正解である。

解答類型別の出現率からは、選択肢1を選んでいる児童が 15.9%いたことが分かる。「大切なことがらについて、話の最後で短くまとめてもう一度話していた。」という選択肢であるが、代表者は行っていない。ここから、話している事柄の順序や内容について十分に把握しておらず、メモもとれていなかったものと考えられる。

メモがとれない理由として、一つのことを詳細に書き過ぎたり、文が長過ぎたりするためにメモが追いつかなくなるということや、書くことに夢中になって大事な言葉を聞き逃してしまうということが考えられる。大切な事柄を判断し、短い言葉で的確にメモする、といった指導が求められる。国語科の授業以外の場面（例えば、他教科における話し合い、インタビュー活動、見学など）においても、メモをとる活動を積極的に取り入れていきたい。

また、話し手の工夫は、自分自身が話し手として話す順序や話の組み立て方を工夫して話す活動を通して身に付けることが大切である。話し手を育てることが、聞き手を育てることとなるので、話すこと・聞くことの両方の活動を同じように大切に取り入れていきたい。

大問 2

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
4	2	(1)	①	○ さんか	1		96.9
				上記以外の解答	9		2.2
				無解答（無記入の場合）	0		0.9
5			②	○ しょうひ	1		87.8
				上記以外の解答	9		9.1
				無解答（無記入の場合）	0		3.2
6			③	○ くらい	1		72.0
				い	2		7.2
				上記以外の解答	9		16.9
				無解答（無記入の場合）	0		4.0
7			④	○ かた	1		96.6
	こ	2			0.3		
	上記以外の解答	9			2.4		
	無解答（無記入の場合）	0			0.8		
8	(2)	①	○ 洋服	1		57.9	
			「洋」だけが○だった場合	2		5.0	
			「服」だけが○だった場合	3		18.8	
			上記以外の解答	9		7.7	
			無解答（無記入の場合）	0		10.7	
9		②	○ 海岸	1		58.1	
			「海」だけが○だった場合	2		23.8	
			「岸」だけが○だった場合	3		1.2	
			上記以外の解答	9		4.9	
			無解答（無記入の場合）	0		12.1	
10	③	○ 氷	1		77.0		
		「さんずい」をつけて書いている場合	2		0.1		
		「永」と書いている場合	3		9.0		
		上記以外の解答	9		9.9		
		無解答（無記入の場合）	0		4.0		
11	④	○ 悲しい（「哀しい」許容）	1		77.6		
		「悲」は書けているが送り仮名が未記入あるいは間違っていた場合	2		1.4		
		上記以外の解答	9		11.6		
		無解答（無記入の場合）	0		9.4		

[2] 出題のねらい

学習指導要領における漢字の扱いは、以下のようになっている。

「第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、(中略)当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。」

学年別配当漢字の「読み」は当該学年において、「書き」は次の学年までに定着を図ることになっている。そこで「読み」については第4学年までに、「書き」については第3学年までに配当された範囲から出題した。

(1)の①参加(サンカ)、②消費(ショウヒ)は、音読みの熟語を読む力、③位(くらい)は、送り仮名のない訓読みの漢字を読む力、④固める(かためる)は、送り仮名のある訓読みの漢字を読む力を問うている。

(2)の①洋服(ヨウフク)、②海岸(カイガン)は、音読みの熟語を書く力、③氷(こおり)は、送り仮名のない訓読みの漢字を書く力、④悲しい(かなしい)は、送り仮名のある訓読みの漢字を書く力を問うている。(1)、(2)とも、音読み・訓読みの問題を、送り仮名の有無も含めた3種類のバランスを考慮して出題した。

第3学年及び第4学年では、第1学年及び第2学年で習う漢字に比べ、配当漢字が増え、それぞれの漢字の画数が多くなることから、漢字学習に抵抗を感じる児童も出てくる。反面、熟語として扱う文字が増えたり、漢字のつくりや辞書の使い方について学習したりする機会が増えてくる。それらのことと関連させるなどして、学習指導方法を工夫すれば、意欲に結び付けることもでき、成果も期待できるであろう。

[3] 解説

「読み」は①96.9%、②87.8%、③72.0%、④96.6%と、平均正答率が88.3%であった。その要因として、出題した語句は日常的に耳にしたり、目にしたりする機会が多く、想起し易かったことが考えられる。日頃からたくさんの本に触れるなどして言葉の幅をさらに広げさせていきたい。しかし、その中で「位(くらい)」の正答率が72.0%であった。「位」の意味として身分や階級、地位という意味や使い方を知らないということが考えられる。各々の漢字の読み方を覚えることはもちろん、文脈に沿って正しく判断できる力や、熟語の意味を理解し自分の表現に取り入れられる力を育てていきたい。

「書き」については平均正答率が67.7%であった。その中でも「洋服」については57.9%、「海岸」については58.1%と低い正答率だった。18.8%の児童が「洋」を、23.8%の児童が「岸」を正しく書けていなかった。漢字を習得する際、漢字の成り立ちを理解していないことが考えられる。また「洋服」、「海岸」については10%以上の無解答がみられた。日頃、文を書くときに既習の漢字を使わず、平仮名表記で済ませてしまっていることが原因と思われる。漢字学習では、ねらいを「文や文章の中で使う」としており、漢字を日常生活で使うことが求められている。日常的に既習の漢字を用いる場面を設定したり、辞書を活用する習慣を身に付けさせ、言葉に興味や関心をもてるような機会を与えたりするなどの指導を通して、定着を図りたい。

大問 3

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正 答	解答類型	類 型 番 号	出現率(%)
No	大 問	中 問	小 問				
12		(1)			1	1	15.5
				○	2	2	63.8
					3	3	9.7
					4	4	9.5
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答（無記入の場合）	0	1.5
13		(2)			1	1	1.6
					2	2	0.9
				○	3	3	78.0
					4	4	18.8
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答（無記入の場合）	0	0.7
14	3	(3)			1	1	13.9
				○	2	2	67.6
					3	3	5.3
					4	4	11.7
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答（無記入の場合）	0	1.4
15		(4)		○	1	1	83.5
					2	2	4.7
					3	3	3.6
					4	4	6.7
					上記以外の解答	9	0.4
					無解答（無記入の場合）	0	1.1

[2] 出題のねらい

学習指導要領に記載されている〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕のうち、(1)イ「言葉の特徴やきまりに関する事項」(キ)の文の構成の初歩的な理解について、(ク)の接続語の役割の理解について、(カ)の辞書を利用して調べる方法の理解について、(1)ア「伝統的な言語文化に関する事項」(イ)の慣用句の意味の理解について、それぞれの指導内容の定着度を測る問題である。

(1)は、主語を問う問題である。昨年度の調査結果の正答率が低く、主語と述語の関係を正しくとらえられない児童がいる現状を踏まえ、今回も引き続き出題した。

(2)は、接続語を正しく活用できるかを問う問題である。接続語の役割を理解し、文と文の関係を考えて接続語を使うことができるかを問う問題とした。

(3)は、国語辞典を利用して調べる問題である。辞書を活用する知識・技能や態度、習慣の基礎は、第3学年及び第4学年で学習する内容である。辞書を利用する能力を問うため、国語辞典を利用して文に合う言葉の意味を調べることを想定した問題

とした。

(4)は、慣用句の意味を正しく理解しているかを問う問題である。2つの文が同じ意味になるよう、普段聞き覚えのある慣用句から、当てはまる言葉を選択する問題とした。

[3] 解説

(1)は、「美しい」の直後にある「星が」が主語であり、文の構成としては比較的易しいものである。正答率は63.8%であった。昨年度の59.1%と比べると高い数値ではあるが、「言葉の特徴やきまりに関する事項」の内容の中では最も低い正答率となった。誤答で「美しい」を選んだ児童が15.5%いたのは、文の始めにあるものを、主語ととらえてしまっていることが考えられる。また、「夜空に」や「かがやいている」を選んだ19.2%の児童は、主語の意味を理解していなかったと思われる。日常生活における会話の中でも、主語を意識して話したり聞いたりさせることが大切である。

こうした言語事項は、取り立て指導のみでは定着が図られにくい。今後も「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の指導を通して、継続的、意図的に指導していきたい。

(2)の正答率は78.0%であった。誤答の中では「しかし」を選んだ児童が18.8%と多かった。これは「二位になったことに満足している」という設問の意図を理解していないと考えられる。「練習をした」にもかかわらず「大会で二位だった」という文ととらえ、逆接でつなげてしまったと考える。接続語によって文章の全体の意味が大きく変わってしまう。伝えたいことを正しく表現するために、接続語の意味、活用の仕方をしっかりと定着させていくことが大切である。

(3)は「細かいことまでよく知っている。」の「細かい」の意味を問う問題である。正答率は67.6%と昨年度の74.1%を下回った。これは、昨年度の問題が「起きる」という動詞に対して、今回の「細かい」が形容詞であったことが理由の一つと考えられる。児童にとって動詞に比べ形容詞は、深く意味を考えながら活用する意識が低いと思われる。児童の生活の中では「細かい」は「小さいこと」という意味の使い方が多い。よって問題文の文脈としてとらえず、日常的な文脈から解答したと考えられる。第3学年及び第4学年は、辞書を活用する能力や態度、習慣の基礎を育てる時期である。まず、国語辞典や漢字辞典などを活用する習慣を付けていく指導が不可欠である。そのためにも、必要なときにはいつでも辞書が手元にあって使えるように環境を整える配慮をしておくことが重要である。また、国語科に限らず、他の教科での調べる学習や日常生活の中でも積極的に辞書を利用できるようにする必要がある。

(4)は「良い結果を生む」と同じ意味になる慣用句を選択する問題である。正答率は83.5%と概ね良好であった。「なみだをのむ」を「良い結果を生む」ことだと誤解している児童は6.7%であった。これは「なみだ」を「努力」と結び付けて考えたためだと考えられる。第3学年及び第4学年の「伝統的な言語文化に関する事項」では、ことわざや慣用句などの意味を知り、使うことが示されている。今後も学習だけでなく日常生活の中で、ことわざや慣用句を理解し活用する態度を育むことが大切である。

大問 4

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正 答	解答類型	類 型 番 号	出現率(%)
No	大 問	中 問	小 問				
16		(1)		○	1	1	90.3
					2	2	1.8
					3	3	3.7
					4	4	3.1
					上記以外の解答	9	0.2
					無解答（無記入の場合）	0	0.9
17		(2)		○	小さな温かいもの（8字）	1	56.5
					上記以外の解答	9	28.2
					無解答（無記入の場合）	0	15.3
18	4	(3)			1	1	4.8
					2	2	18.8
				○	3	3	73.5
					4	4	1.4
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答（無記入の場合）	0	1.4
19		(4)			1	1	1.7
				○	2	2	77.8
					3	3	6.7
					4	4	11.4
					上記以外の解答	9	0.4
					無解答（無記入の場合）	0	2.0
20		(5)			1	1	4.5
					2	2	14.9
					3	3	25.5
				○	4	4	50.5
					上記以外の解答	9	0.2
					無解答（無記入の場合）	0	4.4

[2] 出題のねらい

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は、以下の通りである。

「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」

文学的な文章では想像しながら読み進めていく力、すなわち、「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む」力を身に付けさせたい。

(1) は前後の叙述を手がかりに登場人物の様子を読み取る問題、(2) は文章中の比喩を読み取る問題、(3) と(4) は前後の叙述を手がかりに登場人物の心情を読み取る問題、(5) は物語の場面の移り変わりを読み取る問題である。

[3] 解説

(1) は、叙述に即して「へなへなと座り込んだ『美乃里』の様子として正しいものを選択する問題である。「美乃里」の「わたしが逃がしたと知ったら、みんなはなんて言うだろう。」という文や「そんな声が頭の中でぐるぐるとうずまく。」という文から、「美乃里」がショックを受けているということを理解すれば正答できると考える。正答率は 90.3%と良好であった。「へなへな」という言葉についても理解し、前後の文脈を読み取って想像することができていたと言える。

(2) は、文章中の比喻を読み取り記述する問題である。正答率は 56.5%であった。「黄色と青緑色のもの」が、直後に叙述されている「ミミ」であること、その「ミミ」が、「美乃里」にとって「小さな温かいもの」に感じられ、間接的に表現されていることが読み取れれば、正答できると考える。この問題は無解答率が 15.3%と高い。その原因の一つとして、「比喻」が一体何を表現していたのかが読み取れなかったということが考えられる。直接的な表現だけでなく、間接的な表現からも心情が読み取れる力を育てたい。もう一つの原因として、問題文にある「傍線部よりあとの文章中から」という指示が読み取れなかった可能性も考えられる。題意を的確にとらえる力も育てたい。

(3) は、逃げてしまった「ミミ」を男の子が差し出した場面を読み取る問題である。正答率は 73.5%である。誤答として「安心した」ことが書かれている選択肢 2 を選んだ児童が 18.8%と多かった。見つかったことで安心したと自分の経験と重ね合わせて読んだ児童が多くいたと考えられる。「ミミは、まるで空にすいこまれるように消えてしまった。」と感じている「美乃里」にとって、消えたはずの「ミミ」が目の前に差し出されたという驚きをとらえ、「まちがいない。」という表現と結び付けることで正答できる。叙述を基に心情を追い、場面ごとではなく文章全体をとらえて読む力を育てたい。

(4) は、「美乃里」の涙の理由を問う問題である。物語の中で「美乃里」の心情をとらえ、正答の選択肢を選んだ児童が 77.8%と多くいた。反面「クラスで飼っているインコ」を逃がしてしまったことをとらえることができず、「自分のいちばん大事なものをなくしてしまったと誤解している児童も 11.4%もいた。これは、(3) 同様、前後の文脈ではなく、自分の知っている範囲のものにたよって、取り違えてしまっていると考えられる。生活経験からの連想ではなく、文脈から根拠をもって読む力を育成したい。また、物語本文に入る前に書かれている部分から、物語の設定を読むことの大切さも指導していきたい。

(5) は、物語の場面分けの問題である。正答率は 50.5%である。場面が移り変わるの、時・場所・登場人物などにおいて著しい変化が生じた場合である。この問題は、「どのくらい泣いていたんだろう。」という記述から時間の経過を読み取る、もしくは、「美乃里ちゃん。」と呼びかける小さな男の子という新しい人物の登場などから場面の移り変わりを読み取ることで正答できる。心情を表す括弧のある場面で書きぶりが変わったことで、【3】を場面の転換点として選んだ児童が 25.5%と多くいた。物語の全文を叙述を通して読み進め、登場人物の心情を想像するためには、場面をとらえ、その変化や移り変わりを追っていく力が求められている。場面はどのように変わっていくのかということ、児童が意識して読むことができる力を育てていきたい。

大問 5

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正 答	解答類型	類 型 番 号	出現率(%)
No	大 問	中 問	小 問				
21		(1)			1	1	8.8
					2	2	4.6
					3	3	4.2
				○	4	4	80.7
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答（無記入の場合）	0	1.6
22		(2)		○	1	1	48.6
					2	2	13.1
					3	3	22.9
					4	4	7.0
					上記以外の解答	9	3.0
					無解答（無記入の場合）	0	5.4
23	5	(3)			1	1	15.6
				○	2	2	60.6
					3	3	9.0
					4	4	10.6
					上記以外の解答	9	0.2
					無解答（無記入の場合）	0	4.0
24		(4)			1	1	8.8
					2	2	24.9
				○	3	3	56.9
					4	4	3.9
					上記以外の解答	9	1.2
					無解答（無記入の場合）	0	4.4
25		(5)		○	A「夜の九時ごろまで照明をつけていた」〈16字〉 （①「夜の九時ごろまで」、②「照明をつけていた」という意味のことを、③5～20字以内で書いている。） B「明るい時間を人工的に長くした」〈14字〉 （①「明るい時間を」、②「人工的に長くした」という意味のことを、③5～20字以内で書いている。）	1	42.4
					A=①が×、②③が○だった場合。 B=①が○、②が×、③が○だった場合。	2	25.0
					上記以外の解答	9	16.7
					無解答（無記入の場合）	0	15.9

[2] 出題のねらい

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は、以下の通りである。

「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能

力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」

また、説明的な文章の解釈に関する指導事項として「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」となっている。ここでいう「中心」とは、一般には「中心語」、「中心文」、「中心段落」など、文章全体の中で相対的に重要と位置付けられている部分のことである。中心をとらえるためには、接続語、指示語、繰り返し語句などの役割をおさえながら、段落相互のつながりを理解し、内容や要点を的確に把握することが必要である。そうした力の定着度を測るために、以下のような問題を設定した。

(1) は、オオマツヨイグサが開くための「スイッチ」が入るとどのようなことが起こるのかを読み取る問題である。前後の文脈が読み取れているかを問うている。

(2) は、文章の記述を基に花の開く時間帯を計算することで、書かれていることを正確に読み取れているかを問う問題である。

(3) は、文脈の中から「明るい時間を人工的に長くする」とはどのようなことを問う問題である。明るい時間が人工的に長くなることで起こる結果を読み取るためには、この部分を理解する必要がある。

(4) は、段落相互の関係を読み取る問題である。段落の要点をとらえ文章を読む力を問うている。

(5) は、文章全体を読み取り、花が咲かなかった理由を論述する問題である。本文から読み取ったことを自分の言葉で書く力が求められている。

[3] 解説

(1) は直前に書かれていることを読み取ることができれば解答できる問題である。正答率も 80.7%と概ね良好である。前後の文をしっかりと読み取れていることが分かる。

(2) は、正答率が 48.6%と低い結果であった。選択肢の配列が読み取れていない児童も多くいたのか、ほかの問題と比べると無解答率も 5.4%と高かったと言える。また、正確に叙述を読み取れていないために計算を間違えた児童も多くいた。特にアサガオの開花時刻を誤解した児童が多く、合わせて 29.9%いた。文章内の「日がしずんで暗くなってから約十時間くらいたつ」という記述を基にすれば正答を選ぶことができた。説明されていることを正確に読み取る力を育成したい。

(3) は、正答率は 60.6%であった。細かい部分まで読み取ることができた児童は正答できたと考えられる。「人工的に」という記述が読み取れず、昼の長い季節に明るい時間を長く与えることだと誤解した児童が 15.6%と多くいた。

(4) は、目的に応じて段落相互の関係を読み取る問題である。中心となる語に気付いたり、形式段落の主語を読み取ったり、本文全体を通して段落の意味が理解できたりすると正答を選ぶことができる。正答率は 56.9%であった。説明文の指導事項でも、段落相互の関係や事実と意見との関係を考えることが求められている。目的に応じて、中心となる語や文をとらえられるような学習を工夫することが、必要である。

(5) は、論述タイプの問題として今回初めて取り入れた問題である。正答率は 42.4%と低い結果であった。「人工的に」「長い時間」光を当てたことでコスモスが咲かなかったことを理解し、問題の指示に従って自分の言葉で書くことをねらって出題した。自分の言葉で書くことができず無解答となった児童が 15.9%と多くいた。学習指導要領でも「思考力・判断力・表現力」を付けることが求められているが、考えることができず、また、どう表現をしたらいいのかわからず無解答になってしまったことが考えられる。本文から読み取ったことを自分の言葉で表現したり、まとめたりする力を、今後育成していきたい。

大問 6

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
26	6			○	①イ ②エ ③ア ④ウ (完答)	1	55.1
					①ア ②ウ ③イ ④エ	2	2.3
					上記以外の解答	9	37.9
					無解答 (無記入の場合)	0	4.7

[2] 出題のねらい

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「書くこと」の目標は、以下の通りである。

「相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。」

実用的な文章を書く力がどれだけ身に付いているのかという実態をみたいという意図から、今回初めて、はがきの表書きに必要な事柄や順序を理解しているかを問題として出題した。

[3] 解説

この問題は、はがきの表に書く宛名と差出人の住所と名前について、どこに書くのかを①②③④の中から選択して当てはめる問題である。正答率は55.1%と低い結果であった。解答類型別の出現率からも、全く理解していない児童が多数いると考えられる。その原因の一つとして、日常生活の中で、児童の手紙やはがきを書く経験が少ないことが挙げられる。学習指導要領の第3学年及び第4学年の「書くこと」の領域の言語活動例にも、実用的な文章を書く活動が挙げられ、手紙やはがきの表書きの基本的な形式をおさえることが求められている。今後、さまざまな目的や行事に合わせて、礼状や招待状などの実用的な場での書く機会を取り入れ、指導していきたい。

大問 7

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正 答	解答類型	類 型 番 号	出現率(%)
No	大 問	中 問	小 問				
27	7		①	○	6行以上10行以内(101字以上200字以内)で書いている場合	1	70.6
					11行以上(201字以上)で書いている場合	2	0.1
					上記以外の解答	9	13.3
					無解答(無記入の場合)	0	16.0
28			②	○	2段落構成で書いている場合	1	55.2
					2段落に分けて書いているようだが、段落の書き始めの1マス空けができていない場合	2	2.6
					3段落以上で書いている場合	3	13.9
					上記以外の解答	9	12.3
					無解答(無記入の場合)	0	16.0
29			③	○	「学校の外国語活動の先生にしょうかいしたい、『一年の中で楽しみにしている行事』について、その行事の内容がわかるように書かれている場合	1	74.4
					上記以外の解答	9	9.6
					無解答(無記入の場合)	0	16.0
30		④	○	「その行事のどのようなところを楽しみにしているのか」について、くわしく書かれている場合	1	77.9	
				「おもしろいから」「毎年あるから」などだけで、具体的でない場合	2	3.1	
				上記以外の解答	9	3.0	
				無解答(無記入の場合)	0	16.0	

[2] 出題のねらい

書く題材については、昨年度は「『春』という言葉から思いうかべること」という一つの言葉から連想することを扱う題材であったが、今年度は、「自分が一年の中で楽しみにしている行事を、学校の外国語活動の先生に紹介する」という相手意識をもって書くことができるように問題を設定した。

与えられた条件の中で自分の考えをまとめ、指定された行数の中で構成を考えながら記述する問題であり、表現しようとする意欲、態度と技能を問うている。これは、ここ数年来指摘されている日本の児童・生徒の「記述式の問題についての無解答率の高さ」という課題が、川崎市の児童にも当てはまるかを知りたいと考え、継続的に出題しているものである。

[3] 解説

問題は、相手意識をもって書くことができるように「自分が一年の中で楽しみにしている行事を、学校の外国語活動の先生に紹介する」文章を記述する設定である。注意する点を4つ示し、採点基準としている。

II 調査結果の概要

①の条件は、定められた文字数で自分の考えをまとめることである。正答率は70.6%であった。無解答率は16.0%であり、解答（記述）時間の不足による無解答も含まれることが推測される。

②の条件は、2段落構成で書くことである。正答率は55.2%である。3段落以上で書いている児童は13.9%いた。文章を書く際の段落に対する意識が不足していたり、「一文改行」の癖が付いていたりする児童も少なくない。段落の役割や意味を繰り返し確認するとともに、日常的なノート指導、作文指導においても段落意識を育てたい。

③の条件は「学校の外国語活動の先生にしようかしたい、『一年の中で楽しみにしている行事』について、その行事の内容を書くことである。正答率は、74.4%であった。問いに対して、「必要のある事柄」を選択して書くことができている。

④の条件は、その行事を選んだ理由を詳しく書くことである。正答率は77.9%と概ね良好であった。「おもしろいから」、「毎年あるから」などだけで、具体的な理由を入れて説明することができない解答は3.1%と低く、根拠や理由を述べたり、書いたりする日常の指導の成果が数字に現れていると考えられる。

学習指導要領の第3学年及び第4学年には、「書くこと」の内容（1）のウ「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。」と書かれているように、今後は、理由や事例を挙げながら自分の考えを書いていく力がますます求められる。また、高学年の「事実と感想、意見を区別して書く力」を意識した学習にも、多く取り組ませたい。

(5) 今後の指導にあたって

○話すこと・聞くこと【大問1】

「聞くこと」についての調査結果は、昨年度に引き続き概ね良好であった。聞いた内容を整理しながらメモをとることは聞く力を確かなものにする。国語の学習はもとより、他教科の学習や諸連絡の場などにおいても、メモの積極的な活用を図りたい。実際の場合を通して、事柄の順序や要点、中心などをおさえて、話の組み立て方を意識しながらメモをとることのできる力を育てていきたい。すべての教科で、メモをとらせることを指導者が意識し、メモをとることが実用的であることを児童に実感させたい。また、話し手を育てることが、聞き手を育てることにつながる。日常的に、話すときには、理由や事例を挙げながら筋道を立てることや、話す順序や話の組み立て方を工夫することを指導することも大切である。

○書くこと【大問6・7】

はがきの表書きの基本的な形式を問う問題と、与えられた条件を基に記述する問題を出題した。はがきの表書きに必要な事柄や順序を理解しているかを問う問題の正答率は 55.1%と低い結果であった。児童の実用的な文章を書く経験の少なさが感じられる結果である。今後、さまざまな目的や行事に合わせて、礼状や招待状などを書く機会を意図的に設けて、実生活に生きる書く力を育てていきたい。また、2段落構成で書くという条件の通り記述できるかを問う問題では、正答率は 55.2%と低い結果であった。普段のノート指導や作文指導の中で、構成メモを活用するなどの手立てをとりながら、段落意識を身に付けさせたい。日常的に、相手意識、目的意識、場面意識、方法意識、評価意識をより明確にした書く活動に取り組みさせることで、書く力の向上を図りたい。

○読むこと【大問4・5】

読む力は、物語文、説明文いずれにおいても、全体的に細かい点にまで注意して叙述を丁寧に読む力を育てていく必要性を感じた。物語文では、普段から場面ごとの読み取りではなく全文通読の中で、キーセンテンスやキーワード（重要語句）と関連付けて情景や心情を読み取ったり、場面相互の関係について考えたりする指導に力を入れたい。また、説明文においては、文章を読む目的に応じて中心となる語や文をとらえられるような学習を工夫することが今後の課題である。学習者主体の読みの活動は大前提であるが、どのような言葉の力を付けたいかが不明瞭な学習活動で終わることなく、言語の教育であるという原点に立ち返って、一つ一つの叙述に沿って文章を読むという態度と能力を今後も育てていきたい。物語文も説明文も「根拠をもった読み」という指導が必要である。

○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項【大問2・3】

漢字の「書き」については、漢字や送り仮名が正しく書けていなかったり、未記入にしていたりする児童が少なくなかった。漢字による日常表記を習慣化させなければ、曖昧な漢字の獲得にしかない。国語辞典を身近に置いて活用する習慣を付けさせ、作文やノート、日記や連絡帳などさまざまな書く場において日頃から既習の漢字を積極的に使うように指導し、定着を図っていききたい。

文法的な内容である主語を問う問題での正答率は良好とは言えなかった。こうした言語事項は、一度学習しただけではなかなか定着しないものである。3領域の中でも繰り返し指導し、定着を図っていく必要がある。取り立て指導だけでなく、例えば文脈に沿って内容を考えさせたり、表現の工夫や効果に気付かせたりする指導も有効である。「国語辞典を利用して文に合う言葉の意味を考える問題」についても、良好とは言えない結果であった。引き続き日頃の国語学習において、児童が必要に応じて辞書を活用できる環境づくりに努めたい。「慣用句の意味を正しく理解しているかを問う問題」の正答率は83.5%と概ね良好であった。学習や日常生活の中で、ことわざや慣用句を活用する態度を育み、正しく意味を理解させることが必要である。

◎全体を通して

全体としては概ね満足できる結果が得られたが、今後取り組むべき課題もみえてきた。この調査は「指導に活かす」ことを目的として実施されたものであるから、各学校、各学級においても課題を整理し、各大問の「出題のねらい」、「解説」を参考にし、明日からの国語学習の指導の改善に活かしていくことが望まれる。なお、言葉の力を育てるには、国語の時間に指導することを中核としながら、学校教育全体で取り組むことも大切である。言語環境を整備したり、読書活動を充実させたりするなど、教育課程の全体を通して育てていくよう、各学校において工夫されることが望まれる。

2. 算 数

(1) 作問にあたって

- ① 川崎市全体における第5学年の学習状況を把握するため、より客観的なデータが得られるように作問を行った。したがって、出題範囲を第4学年までとし、基礎・基本の定着の様子をみることができる問題を作成した。また、過去の問題と関連したものも出題することによって、解答傾向の推移も把握できるように配慮した。
- ② 学習指導要領において、算数科は「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の4領域で構成されている。そこで、幅広い範囲において学習状況を把握していくために、4領域の項目についてすべて網羅するように出題した。
- ③ 主たる評価観点を考えた上で問題を作成したが、「算数への関心・意欲・態度」の評価観点については、ペーパーテストでみることは難しいと考え、評価の観点としては取り上げないことにした。他の「数学的な考え方」、「数量や図形についての技能」、「数量や図形についての知識・理解」の3観点については網羅するようにした。しかし、「数学的な考え方」は、本来、論理的な思考過程をみるものであり、ペーパーテストでは表出しにくい面があることを念頭に入れておく必要がある。
- ④ 本調査は、児童の学習の実態状況を把握するとともに、「生きる力」を育む教育課程や指導法の検証・改善に活かすことなどをねらいとして行われるものである。したがって、作問にあたっては、誤答からなぜそうした間違いをするのか、調査後どのような点に気を付けて指導していけばよいか分かるように配慮した。

(2) 領域ごとの結果

領域		該当する問題番号	正答率(%)
A	数と計算	1 (1) (2) (3) (4) (6)	65.9
		2 3 (1) (2) (3)	
		4 5 (1) (2) 8	
B	量と測定	10 11 (1) (2) (3)	68.6
		17 (1) (2)	
C	図形	12 13 (1) (2)	72.9
		14 (1) (2)	
D	数量関係	1 (5) 6 7 9	63.3
		15 16	

(3) 出題・観点等一覧 (次ページ)

出題・観点等一覧

シリアル No.	問題番号			正答 (選択式-番号, 記述式-言葉)	観点			問題の内容	領域	出題のねらい	学習指導要領	正答率(%)		
	大問	中間	小問		数学的な 考え方	数量や図形 についての 技能	数量や図形 についての 知識・理解							
1	1	(1)	6.71		◎		①分数, 小数	A数と計算	小数第二位までの小数の加法ができる。 小数第二位までの小数の減法ができる。	4年A(5)イ		71.6		
		(2)	80.82		◎									
		(3)	10		◎		②かけ算, わり算	A数と計算	(小数)×(1けた)の乗法ができる。 (整数)÷(整数)のわり進む除法ができる。	4年A(5)ウ		86.8		
		(4)	2.25		◎									66.8
		(5)	12		◎		③式と計算	D数量関係	四則混合計算ができる。	4年D(2)ア		62.4		
		(6)	16/7(2 2/7)		◎		①分数, 小数	A数と計算	帯分数をふくむ同分母分数の加法ができる。	4年A(6)イ		71.4		
7	2		9(本とれて,)1.5(cmあまる)(完答)		◎	○	②かけ算, わり算	A数と計算	(小数)÷(1けた)の余りのある除法の適用問題ができる。	4年A(5)ウ		46.1		
8	3	(1)	8			◎	①分数, 小数	A数と計算	分数が単位分数のいくつかで表せることがわかる。 数直線上に示された分数をよみとることができる。 分数の大きさがわかり, 仮分数・帯分数・整数を大小順に並べることができる。	4年A(6)		73.2		
		(2)	1 1/3(4/3)		◎								60.5	
		(3)	13/4(>)3(>)2 3/4(完答)		◎								66.9	
11	4		③		○	◎	④大きな数	A数と計算	位取り記数法を理解し, 1億より大きい数を表すことができる。	4年A(1)ア		63.3		
12	5	(1)	37000		◎	○	⑤がい数	A数と計算	四捨五入を理解し, 上から2けたの概数で表すことができる。 「以上」「以下」の意味がわかり, 概数に対応する数の範囲がわかる。	4年A(2)イ		69.9		
		(2)	(ア)③, (イ)①(完答)	◎	○	○						4年A(2)ア, イ		66.0
14	6		(左から)ー, ×(完答)	◎	○	○	③式と計算	D数量関係	計算順序に関する文章問題を式に表すことができる。	4年D(2)ア		29.3		
15	7		③	◎	○	○	③式と計算	D数量関係	四則混合計算の仕方がわかり, 指定された式になる問題を選択できる。	4年D(2)ア		69.3		
16	8		④	◎	○	○	②かけ算, わり算	A数と計算	倍とわり算の問題を図に表すことができる。	4年A(3)ア		59.0		
17	9		4		○	◎	③式と計算	D数量関係	計算のきまりを理解している。	4年D(3)ア		68.7		
18	10		①	◎		○	⑦角	B量と測定	180°より大きい角のくふうした求め方がわかる。	4年B(2)ア, イ		80.3		
19	11	(1)	②			◎	⑥面積	B量と測定	面積の大きさについての感覚を身に付けている。 長方形の面積を求めることができる。 正方形の面積を求めることができる。	4年B(1)ア		53.0		
(2)		(式)4×5(=20) (答え)20(cm ²)(完答)			○	◎						4年B(1)ア, イ		92.4
(3)		(式)6×6(=36) (答え)36(cm ²)(完答)			○	◎								77.6
22	12		略(辺の長さが7cmと3cmの平行四辺形)		◎	○	⑧いろいろな形	C図形	平行四辺形の作図ができる。	4年C(1)イ		62.0		
23	13	(1)	②(と)④(順不同, 完答)			◎	⑧いろいろな形	C図形	四角形の辺の長さの性質がわかる。 四角形の対角線の性質がわかる。	4年C(1)イ		88.6		
24		(2)	③(と)④(順不同, 完答)			◎								71.4
25	14	(1)	①			◎	⑧いろいろな形	C図形	直方体の展開図がわかる。 直方体の面に平行な面がわかる。	4年C(2)ア, イ		58.5		
26		(2)	(面)う			◎								83.9
27	15		○×4(=△)	◎	○	○	⑩変わり方	D数量関係	伴って変わる二つの数量の関係を式に表すことができる。	4年D(2)ウ		61.6		
28	16		(例)2002年生まれの子の人数		◎	○	⑨整理のしかた	D数量関係	二次元表をよみとり, 対象のマスの意味を説明することができる。	4年D(4)ア		88.4		
29	17	(1)	(式)7×8-3×6(=38)	◎	○	○	⑥面積	B量と測定	複合図形の面積の求め方を考え, 式に表すことができる。 複合図形の面積の求め方を考え, 説明することができる。	4年B(1)ア, イ		60.4		
30		(2)	(図)略 (説明・例)2つの長方形に分けて計算して, それぞれの面積を合わせた。(完答)	◎	○	○								48.1

【観点】◎…主たる観点 ○…従たる観点

(4) 大問ごとの分析と考察

大問 1

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
1		(1)		○ 6. 71	1		71.6
				671	2		0.0
				4. 73	3		23.0
				473	4		0.1
				4. 91	5		0.1
				上記以外の解答	9		4.8
				無解答	0		0.3
2		(2)		○ 80. 82	1		54.9
				8082	2		0.1
				747 または 74. 7, 7. 47	3		16.1
				80. 98	4		1.8
				81. 18	5		0.2
				853 または 85. 3, 8. 53	6		0.2
				上記以外の解答	9		25.3
無解答	0		1.4				
3	1	(3)		○ 10 (10. 0は許容)	1		86.8
				100	2		3.2
				上記以外の解答	9		9.4
				無解答	0		0.6
4		(4)		○ 2. 25	1		66.8
				225	2		15.6
				2あまり1	3		2.1
				上記以外の解答	9		12.1
				無解答	0		3.4
5		(5)		○ 12	1		62.4
				7	2		28.6
				上記以外の解答	9		7.0
				無解答	0		1.9
6		(6)		○ 16/7 または 2 2/7	1		71.4
				1 9/7	2		17.4
				19/7 または 2 5/7	3		0.3
				上記以外の解答	9		9.4
				無解答	0		1.5

[2] 出題のねらい

大問1は、第4学年で学習する計算問題をまとめて出題している。(1)～(4)と(6)は「数と計算」、(5)は「数量関係」領域の問題となっており、いずれも数量についての技能をみる問題である。

(1)は、小数第二位までの小数の加法の問題で、加数を整数にすることで、小数と整数の違い、位取りを意識して計算できているかをみる。(2)は、小数第二位までの小数の減法の問題である。被減数は小数第一位までの小数、減数は整数部分のない小数第二位までの純小数にして、小数点を意識して計算できているかをみる。(3)は、小数×整数

=整数となる問題で、被乗数の小数点を意識して、積の小数点の処理ができてきているかをみる。(4)は、 $(1\text{桁}) \div (1\text{桁})$ で、割り進みの除法の問題で、割り進む場合の除法ができてきているかをみる。(5)は、四則混合の問題で、四則計算の順番について加減乗除が混合している場合は、乗除から先に計算できているかをみる。(6)は、帯分数を含む同分母分数の加法の問題で、同分母分数の加法の仕方に加え、帯分数の整数部分の処理ができてきているかをみる。

[3] 解説

(1) 「 $4.71 + 2$ 」の正答率は71.6%で、昨年度の「 $2 + 4.7$ 」の正答率81.9%と比べて10ポイントほど減少している。位取りの誤りによる誤答「4.73」は23.0%と高い。一昨年度の「 $4.7 + 2$ 」の正答率が60.7%で、位取りの誤りによる誤答「4.9」が34.5%であることから、「整数+小数」より「小数+整数」の計算の方が位取りを間違え易いことが分かる。これは位を意識せず、数値を機械的に左側にそろえ計算する児童が多いためである。どのような数値であっても、単位量(同じ位)が同じものを計算する習慣を身に付けるよう指導していくことが大切である。

(2) 「 $81.5 - 0.68$ 」の正答率は54.9%で、昨年度の「 $81.5 - 0.6$ 」の正答率79.5%から25ポイント近く減少した。昨年度の問題と異なり、小数第一位までの小数から小数第二位までの小数を減ずる問題であったため、位取りを間違える誤答が16.1%と高い数値を示す結果となった。また、繰り下がりが2回必要な減法のため、計算処理の間違いが増え、低い正答率につながったものと考えられる。平成23年度全面実施の学習指導要領では、繰り下がりや繰り上がりは2回行うところまで学習することが必要であると考えられていることから、(1)の問題と同様に、十進位取り記数法を意識して、位をそろえて計算できるように指導していくことが必要である。

(3) 「 2.5×4 」の正答率は86.8%と比較的高く、小数 \times 整数の計算の仕方は概ね身に付いていると言える。昨年度の「 2.5×3 」の正答率93.4%から正答率がやや減少しているのは、今年度は小数 \times 整数=整数となる場面であったため、小数点を付け忘れたり、繰り上がりの処理を誤ったりする児童が増えたことが原因であると考えられる。「100」という誤答は3.2%であったが、計算の習熟とともに数の大きさに対する感覚を育てていく必要がある。

(4) 「 $9 \div 4$ 」の正答率は66.8%で、「225」と小数点を付け忘れている誤答が15.6%あった。正答率は昨年度とほとんど変わっていないため、今後も継続して、計算の意味を理解させながら、処理技能の定着を図る必要がある。

(5) 「 $10 + 4 \div 2$ 」の正答率は62.4%で、昨年度の「 $11 + 3 \times 4$ 」の正答率70.5%と比べるとやや減少している。左から順に計算した誤答の割合も28.6%と高い。新しい学習は身に付き易いが、既習をさらに深めたり広げたりする学習では正答率があまり高くないことから、今後も継続して、四則計算のきまりにしたがって計算できるように指導を積み重ねていくことが大切である。

(6) 帯分数を含む同分母分数の加法「1と $4/7 + 5/7$ 」の正答率は71.4%で、昨年度の同分母真分数の加法「 $4/7 + 5/7$ 」の正答率95.9%と比べると25ポイント近く低い結果となった。「1と $9/7$ 」という帯分数と仮分数が混在した誤答が17.4%と高いことから、同分母分数の加法を、分子同士の計算としてしかとらえていない児童が多いことが分かる。指導にあたっては、数値の処理技能だけでなく、帯分数と仮分数についての意味の理解にも重点を置く必要がある。特に単位量あたりの分数の何個分という見方を身に付ける指導を一層充実させることが大切である。

大問 2

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
7	2			○	9(本とれて,)1.5(cmあまる) (完答)	1	46.1
					9(本とれて,)15(cmあまる)	2	3.4
					9(本とれて,)0.5(cmあまる)	3	14.3
					9(本とれて,)5(cmあまる)	4	6.8
					9.5(本とれて,)または95(本とれて,)としている。	5	9.4
					上記以外の解答	9	13.2
					無解答	0	6.7

[2] 出題のねらい

大問2は、「数と計算」領域の「小数と整数のわり算」の文章問題である。割り切れる場合、割り進む場合、あまりを出す場合など、問題場面の意味を考えながら計算することができているのかをみることを目的として問題を設定した。

[3] 解説

文章を読んで、 $28.5 \div 3$ の包含除の場面をとらえ、処理するこの問題は、正答率が46.1%であった。昨年度から10ポイントほど上がったものの依然低い正答率である。あまりに小数点を付け忘れている誤答が3.4%、商とあまりの意味が分かっていない誤答が合計で21.1%、割り進んで計算している誤答が合計9.4%あった。いずれも問題場面の意味を十分にとらえられていないことを示している。

「小数と整数のわり算」の問題場面には、割り進む(割り切れず商を概数で求める場合も含む)場面(等分除)とあまりを出す場面(包含除)とがある。どちらの場合も小数÷整数の処理技能を身に付けるだけでなく、場面の意味をとらえ、何の位まで計算すればよいのかを考えることを大切にされた指導を行う必要がある。その指導法としては例えば、問題場面を半具体物や図を用いて表現する活動が考えられる。図や操作活動を重視することで、等分除の場面と包含除の場面の違いがとらえ易くなるだけでなく、商とあまりの関係も明確になる。そのような経験を重ねることで、割り進むことができる場面なのか、あまりを出す場面なのかの判断を児童ができるようにしていくことが大切である。

大問 3

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
8		(1)		○ 8	1		73.2
				3	2		5.9
				13	3		8.5
				上記以外の解答	9		10.2
				無解答	0		2.2
9	3	(2)		○ 1 $\frac{1}{3}$ または $\frac{4}{3}$	1		60.5
				$\frac{1}{3}$	2		2.4
				$\frac{4}{7}$	3		0.4
				1. 1	4		1.3
				1. 1以外的小数	5		6.7
				上記以外の解答	9		19.9
				無解答	0		8.9
10		(3)		○ $\frac{13}{4}(>)\frac{3}{4}(>)\frac{2}{3}(\frac{3}{4})$ (完答)	1		66.9
				$\frac{13}{4}(>)\frac{2}{3}(\frac{3}{4})(>)\frac{3}{4}$	2		7.4
				$\frac{2}{3}(\frac{3}{4})(>)\frac{13}{4}(>)\frac{3}{4}$	3		3.1
				$\frac{2}{3}(\frac{3}{4})(>)\frac{3}{4}(>)\frac{13}{4}$	4		2.4
				$\frac{3}{4}(>)\frac{13}{4}(>)\frac{2}{3}(\frac{3}{4})$	5		8.4
				$\frac{3}{4}(>)\frac{2}{3}(\frac{3}{4})(>)\frac{13}{4}$	6		7.7
				上記以外の解答	9		3.2
				無解答	0		0.9

[2] 出題のねらい

大問3は、「数と計算」領域の「分数」に関する問題である。ここでは、分数の基礎的・基本的な理解ができているかをみることを目的として問題を設定した。そのため、知識・理解が主たる観点の問題となっている。

(1) は、分数が単位分数のいくつ分で表されていることが分かっているかどうかをみるための問題である。

(2) は、数直線上に表された分数を読み取る問題である。昨年度と同様に1より大きい分数のみ数直線上に表す問題を設定した。

(3) は、分数と整数を大きい順に並べる問題である。昨年度までと同様に仮分数、帯分数、整数を扱い、帯分数か仮分数にそろえて比較する必要が生まれるような問題を設定した。

[3] 解説

(1) は、「1と $\frac{3}{5}$ は、 $\frac{1}{5}$ を□こあつめた数です。」と□に当てはまる数を問う問題である。正答率は73.2%で、昨年度と比較すると若干下がっている。過去の「 $\frac{7}{9}$ は、 $\frac{1}{9}$ を何こ集めた数ですか。」という問題では95.9%と高い正答率であった。真分数では分子を見て単位分数のいくつ分であるかは分かっているが、帯分数になると整数部分の「1」が何を表すのかイメージできていない児童がいると考えられる。今後も、仮分数と帯分数を結び付ける指導だけでなく、常に分数を単位分数のいくつ分であるかと考える見方を育てていく必要がある。その方法として、数直線や図などを活用して、単位分数がいくつ集まると整数になるのかイメージできるような指導が挙げられる。

(2) は、数直線上に示された分数「1と $\frac{1}{3}$ （または $\frac{4}{3}$ ）」を読み取る23年度、21年度と同じ問題である。正答率は60.5%であり、昨年度と大きな差はなく、22年度と同様の問題とも大きな差はみられない。22年度の1より小さい分数の場合では67.4%と高かったことから、(1)と同様に帯分数・仮分数になるとつまずく児童がいることが分かる。「1を等分したもののいくつ分」という分数の意味を、(1)と同様に理解するため、数直線などを用いて視覚的にとらえられるような指導の工夫が必要である。また、「目盛り1つ分の大きさは常に変わらない」「目盛りいくつ分で数が表される」という数直線の性質も理解できるようにすることが大切である。

(3) 「3、2と $\frac{3}{4}$ 、 $\frac{13}{4}$ 」を大きい順に並べるという問題では、正答率が66.9%で昨年度の60.9%と比べると高くなっている。昨年度は「 $\frac{7}{3}$ 、1と $\frac{2}{3}$ 、2」という問題であった。表し方の異なる分数同士をどのようにして比べればよいかを児童に考えさせたり、どの形式に直すと比べ易いかを検討したりする活動を取り入れた指導が効果的であったと考えられる。引き続き、そのような算数的活動を重視するとともに、ただ形式的に比較の仕方を定着させるだけでなく、相対的に分数をとらえたり、ある分数をいろいろな形式で表したりする活動を重視することが大切である。

大問 4

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
11	4			①	1		1.3
				②	2		32.7
				○ ③	3		63.3
				④	4		1.9
				上記以外の解答	9		0.1
				無解答	0		0.6

[2] 出題のねらい

大問4は、「数と計算」領域の「大きな数」の内容として、億の単位までの範囲で出題した。十進位取り記数法の理解を中心として知識・理解を主たる観点としたため、昨年度と同様に数を書き表すのではなく選択する形式にした。「100億を23こあつめた数はいくつ」という、億を超える大きな数でも、単位のいくつ分で数が構成されていることを理解しているかをみる問題である。

[3] 解説

正答率は63.3%で、昨年度と大きな差はみられなかった。今年度は「100億を23こあつめた数」を求める問題であったが、およそ1/3の児童が「230億」と答えている。「100億」という言葉から単純に選択した児童が多いと考えられる。今後も、十進位取り記数法の考えを大切に扱い、数を多様な見方でとらえられるような指導を継続することが必要である。単位となる数を意識するために、「10が45個で…」、「1200は100のいくつ分」などの課題を扱う際には、量感を育てることにまず取り組み、その後に処理の方法を指導する。図や数直線などを用いて視覚的にとらえたり、長さ、重さなどの具体物を使いながら体感的にとらえさせたりすることが重要である。

大問 5

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
12		(1)		○	37000 または 約37000	1	69.9
					30000	2	0.3
					35000	3	0.1
					36000	4	1.9
					36500	5	2.8
					40000	6	10.9
					上記以外の解答	9	10.4
					無解答	0	3.6
13	5	(2)		○	(ア)③または250, (イ)①または349 (完答)	1	66.0
					(ア)③または250, (イ)②または350	2	7.4
					(ア)③または250, (イ)①, ②, 349, 350以外(無解答含む)	3	4.9
					(ア)④または251, (イ)①または349	4	8.4
					(ア)④または251, (イ)②または350	5	1.0
					(ア)④または251, (イ)①, ②, 349, 350以外(無解答含む)	6	1.6
					上記以外の解答	9	7.3
					無解答	0	3.4

[2] 出題のねらい

大問 5は、「数と計算」領域の「がい数」の内容から出題した。

(1)は、「36504」を四捨五入して、上から2桁の概数で表す問題である。四捨五入の仕方が分かり、適切に処理できるかどうかをみる問題として設定した。

(2)は、「四捨五入して百の位までの概数にしたとき、300になる数の範囲にある数」を答える問題である。概数の意味に基づいての判断をみるために設定した。

[3] 解説

(1)の正答率は69.9%で、昨年度と大きな差はない。誤答では「上から2桁目で四捨五入」して40000とする解答が10.9%と最も多い。「上から2桁」と「上から2桁目で」の違いをとらえられていない児童がいると考えられる。今後も継続してさまざまな問われ方の課題を経験し、適切に判断する力や処理する力を養う必要がある。

(2)は、正答率は66.0%で、昨年度より若干上がっている。引き続き、数直線などを活用して視覚的に数の範囲をとらえられるように指導を工夫する必要がある。さらに、正確な数を概数にする活動だけでなく、概数からもとの数値を予想する活動も取り入れることが大切である。概数は日常生活では最もなじみが深い数であるにもかかわらず、「おおよそ」という、答えが複数ある課題になじみがうすい。したがって、日常生活で使われている数は「がい数」がほとんどであることに着目させていく必要がある。

大問 6

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
14	6			○ (左から)－, × (完答)	1		29.3
				(左から)－, ÷	2		13.0
				(左から)÷, ÷	3		7.4
				(左から)÷, －	4		6.7
				(左から)÷, ×	5		24.3
				÷を使っているもの(類型2～5以外)	6		11.5
				上記以外の解答	9		4.1
				無解答	0		3.6

[2] 出題のねらい

大問6は、「数量関係」領域で、四則の混合した文章問題の意味を理解し正しく立式できるかどうかをとらえるための問題として設定した。主な観点は、数学的な考え方の「式についての考え」である。今年度は昨年度同様、減法と乗法が混在する問題にした。

[3] 解説

今年度は、「折り紙が250まいあります。1人に50まいずつ、4人に配ります。残りは何まいですか。」を1つの式に表すとどうなるかを考え、 $250 \square 50 \square 4$ の□に当てはまる記号(「－」、「×」)を書く問題であった。正答率は、29.3%であった。

昨年度は、「おさいふに250円入っています。50円のチョコレートを4つ買いました。残りは何円ですか。」を1つの式に表すとどうなるかを考え、 $250 \square 50 \square 4$ の□に当てはまる記号(「－」、「×」)を書く問題であった。昨年度の正答率は、71.9%であった。昨年度も今年度も場面は違えど、同じ記号を用いて立式できる問題である。しかし、今年度の正答率は、昨年度と比較すると格段に下がっている。その理由として、①昨年度は、生活経験に根ざした問題であったこと。②「1人に50まいずつ、4人に配ります。」という文言から、わり算であるにとらえてしまった児童が多かったことが考えられる。解答類型別の出現率をみても、わり算の記号を用いた誤答が合計62.9%と多いことが分かる。

加減乗除の混合場面をよりよく理解するために、問題文から「あわせる」はたし算、「のこりは」は引き算など、言葉だけで演算決定するのではなく、問題場面の意味をとらえて立式することが大切である。低学年の時から「問題を読んで場面をとらえること」、「場面を式に表すこと」ができるよう、場面を図に表したり、立てた式の意味を読み取ったりする学習を積み重ねていく指導をする必要がある。

大問 7

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
15	7			①	1		7.6
				②	2		17.2
				○	3		69.3
				④	4		3.3
				上記以外の解答	9		0.3
				無解答	0		2.3

[2] 出題のねらい

大問7は、「数量関係」領域の「式と計算」の内容を取り上げた。四則の混合した式や()を用いた式を読み、問題場面と照らし合わせることができるかをみる問題として設定した。

[3] 解説

「 $(240-30) \div 3$ 」の式で答えが求められる問題はどれかを考える問題である。昨年度の「 $(180+60) \times 3$ 」の正答率は63.8%、今年度の「 $(240-30) \div 3$ 」の正答率は69.3%であった。式から問題場面を読み取る指導の大切さが浸透してきていると考えられる。しかしながら、選択肢②の誤答が17.2%であることから、大問6同様、「1クラスに30個ずつ」「残っていますか」という文言からわり算・ひき算と判断している児童が多かったのではないかと考えられる。

自分の考えを図や絵に表したり、立式した根拠を場面や図を基に説明したりする日頃の活動が大切である。これからも、学習の中で、ある児童がかいた式や図の意味をクラスで考えるなど、文章と図や式を関連付けて読み取る機会を設ける必要がある。

大問 8

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正 答	解答類型	類 型 番 号	出現率(%)
No	大 問	中 問	小 問				
16	8			①	1		23.5
				②	2		11.9
				③	3		3.5
				○ ④	4		59.0
				上記以外の解答	9		0.3
				無解答	0		1.9

[2] 出題のねらい

大問 8 は、「数と計算」領域で、比較量と割合から基準量を求める除法の場面を取り上げた。図から数量の関係を読み取る力をみる問題を設定した。

[3] 解説

正答率は 59.0% である。選択肢①の誤答率は 23.5% と高い。これは、じゃがいもの重さ 60 kg だけに着目してしまい、じゃがいもとトマトの関係（どちらが基準量なのか）をしつかりととらえていないためだと考えられる。過去の同様の設問でも昨年度は 60.2%、一昨年度は 60.5% という正答率である。

現行の学習指導要領では、具体物、言葉、数、式、図、数直線を用いて表したり考えたり説明したりする活動を通して指導することが掲げられている。低学年から、具体物や半具体物を 1 列に並べたり、図に表したりするなどの活動を増やしていくことが大切である。第 2 学年のかけ算の学習や、第 3 学年のわり算の学習でも、数直線を意識したテープ図が教科書などで明示されている。具体的なものから徐々に段階を踏んで、より抽象化されたテープ図や数直線を読み取ったり、かいたりする力を育てていきたい。引き続き、低学年の時から課題場面から立式して計算処理をするだけでなく、テープ図や数直線などで数量関係をまとめるような授業展開が必要である。

大問 9

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
17	9			○	4	1	68.7
					20	2	2.9
					50	3	3.6
					200	4	2.7
					上記以外の解答	9	12.0
					無解答	0	10.0

[2] 出題のねらい

大問9は、「数量関係」領域で、分配法則の性質を理解し、加減乗除に関するきまりを用いて、工夫して計算できるかをみる問題として設定した。

[3] 解説

正答率は、68.7%である。昨年度の「 $(100-2) \times 7 = 100 \times 7 - 2 \times 7$ 」の正答率 59.2%より上がっている。課題の数値は違っているが、問われている部分は昨年度も今年度も同じであることから、等号の意味や分配法則については概ね理解できてきていると認識できる。各校の指導が昨年度の課題を踏まえたものであったと言える。

指導する場面においては、加減乗除に関して成り立つ性質を使いたくなるような課題設定が大切である。この性質を使うと計算が簡単にできるという経験を積み重ね、加減乗除に関して成り立つ性質の良さを感じることができれば、計算の仕方を自ら工夫しようとすると考えられる。

また、指導の中で、等号の意味、式の意味や表し方についての理解を充実させることも大切である。

大問 10

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正 答	解答類型	類 型 番 号	出 現 率(%)
No	大 問	中 問	小 問				
18	10			○ ①	1		80.3
				②	2		5.8
				③	3		7.5
				④	4		3.6
				上記以外の解答	9		0.3
				無解答	0		2.5

[2] 出題のねらい

大問 10 は、「量と測定」領域で、「角」について出題した。

180 度より大きな角度を、角が 1 回転で 360 度であることを基に解決するという問題である。与えられた図から、どのように考えて角度を求めたか、式を選ぶという主に数学的な考え方をみる問題として設定した。

[3] 解説

正答率は 80.3% で、180 度よりも大きな角度の測り方について、よく理解している児童が多い。1 回転が 360 度であることから、いらない部分の 150 度を引いて角度を求める方法を考え、それを表す式を選ぶことができている。回転体として角度をとらえ、1 回転が 360 度だと実感できるような授業が浸透していると言える。

昨年度は 8 枚の三角形を合わせて 1 回転させたものから、1 つの三角形の角度を求めるという問題で、正答率は 62.2% だった。1 回転が 360 度と分かっているにもかかわらず、その角を 8 等分するという事に困難を感じる児童が多かった。

今年度も、1 回転が 180 度だと間違えている児童が 7.5%、1 周の 360 度から引くという考えができずに、180 度や 90 度に提示された 150 度を足す児童が合計 10% 近くいた。

引き続き、角度は直線の開き具合を表す量という定義を基に、180 度を超える角についても、操作を通して基準の 0 度からどれだけ開いたかを理解できるようにすることを意識して指導をしていきたい。また、その 1 回転した大きさは 360 度であることをおさえていくことが大切である。

大問 11

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
19		(1)		○	①	1	7.8
				○	②	2	53.0
				○	③	3	34.4
				○	④	4	2.4
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答	0	2.3
20	11	(2)		○	(式) 4×5 または $4 \times 5 = 20$ (答え) $20(\text{cm}^2)$ (完答)	1	92.4
					(式) $4 + 5 + 4 + 5$ または (式) $(4 + 5) \times 2$ (答えは問わない)	2	0.8
					式は正しいが、答えが間違っているもの	3	0.6
					上記以外の解答	9	2.8
					無解答	0	3.4
21		(3)		○	(式) 6×6 または $6 \times 6 = 36$ (答え) $36(\text{cm}^2)$ (完答)	1	77.6
					(式) 6×4 または (式) $6 + 6 + 6 + 6$ (答えは問わない)	2	9.8
					(式) 6×2 または (式) $6 + 6$ (答えは問わない)	3	2.2
					(式) 6×1 (答えは問わない)	4	1.0
					式は正しいが、答えが間違っているもの	5	1.2
					上記以外の解答	9	2.8
					無解答	0	5.3

[2] 出題のねらい

大問 11 は、「量と測定」領域の「面積」について出題した。

(1) は、単位から適切な面積のものを選ぶ問題である。量感が身に付いているかをみることをねらいとしているので、知識・理解の観点とした。

(2) (3) は、長方形・正方形の面積を求める問題である。面積の求め方が分かっているかをみる問題としているので、主たる観点は知識・理解である。

[3] 解説

(1) は、正答率が 53.0% だった。昨年度の正答率 44.0% より少し上がっている。昨年度は 4■に合う面積のものを選択する問題だった。「■」の広さ (10m×10m) を理解していないために答えられない児童、ミニバスケットボールのコートになじみがなく広さをイメージできない児童が多かったと思われる。

今年度はイメージし易い 5 m² を問題とした。しかし、5 m² の大きさのイメージがつかない児童が多かった。「教室の黒板の面積」と、広さをしっかりととらえられている児童が 53.0% なのに対し、「教室のゆかの面積」と答える児童も 34.4% いた。「50 円切手」や「川崎市の面積」など、単位の「m²」には明らかに大き過ぎたり小さ過ぎたりするものは違うと判断できても、「m²」で表せそうな大きさはしっかりととらえられていないように思う。

量感を育てる上で大切なことは経験である。机上の計算で終わらず、実際に測ったり比べたりして体感することが大事である。また、自分の知っている単位に置き換えて見積もることも有効である。例えば、5 m² がどれくらいの広さかを考えるときに、縦 1 m と横 5 m の長方形をイメージすると分かり易い。このように、長さに置き換えて考えると、面積や体積の見積もりができるようになる。このような指導も取り入れ、量感を育てていきたい。

(2) の正答率は 92.4% と、昨年度の 91.0% とほとんど変わらなかった。長方形の面積は縦×横で求められることを理解している児童が多い。公式を使って面積を求める指導がしっかりとできていることが分かる。

(3) の正答率は、77.6% である。(2) の長方形の面積に比べて正答率が低いのは、数値が 1 辺の長さ 1 つしか出ていないことが原因と考えられる。そのため、6×4 と周りの長さを求めている児童が 9.8% いた。(2) の結果から長方形の面積は求められることが分かるので、正方形の場合は、文章から図形をイメージすることが難しいと考えられる。面積を求める学習においても、図形の学習と結び付けて、言葉で示された正方形をイメージできるようにするために、低学年のうちから図形をかいたり作ったりする活動を大切にしていきたい。

大問 12

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
22	12			○	略(辺の長さが 7cmと3cmの平行四辺形)	1	62.0
					四角形をかいているが、コンパスのあとがかかれていないもの。もしくは、コンパスのあとを消しているもの。	2	16.8
					上記以外の解答	9	16.7
					無解答	0	4.5

[2] 出題のねらい

大問 12 は、「図形」の領域で、平行四辺形の性質を基に、辺の長さが 7 cm と 3 cm の平行四辺形をコンパスを使って正しく作図できるかどうかをみる技能の問題である。

[3] 解説

昨年度の正答率は 55.8%であったのに対し、今年度は 62.0%であった。昨年度よりコンパスのあとを消してしまうと正答にならないとしたが、正答率は上がっている。各校の指導が適切であったと思われるので、引き続き、自分の考えた過程が残るように、ノートに作図のあとや計算のあとを残す指導を継続することが大切である。

また、図形を作図する方法は、1つの図形に対して、いくつかの作図の方法が考えられる。平行四辺形を作図についても、「2枚の三角定規を使う作図」と、「コンパスを使う作図」などの多様な作図方法に取り組むと、図形のかき方だけでなく、特徴への理解も深まっていく。

そして、その際は、作図の技能を重視するだけでなく、向かい合う2組の辺が平行であるという定義や向かい合う辺の長さは等しくなっているという性質と結び付け、それぞれの作図方法が正しいという根拠を説明させる言語活動も充実させていきたい。

大問 13

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正 答	解答類型	類 型 番 号	出現率(%)	
No	大 問	中 問	小 問					
23		(1)		○ ②, ④(順不同, 完答)	1		88.6	
				②, ③	2		0.6	
				③, ④	3		6.0	
				上記以外の解答	9		2.5	
				無解答	0		2.3	
24	13	(2)		○ ③, ④(順不同, 完答)	1		71.4	
				①, ②	2		3.0	
				①, ③	3		11.0	
				①, ④	4		0.8	
				②, ③	5		4.7	
				②, ④	6		3.7	
				上記以外の解答	9		1.9	
				無解答	0		3.6	

[2] 出題のねらい

大問 13 は、「図形」領域の「いろいろな四角形」について出題した。

(1) は、「4つの辺の長さがすべて等しい四角形」を選ぶ問題で、図形についての知識・理解をみる問題である。

(2) は、「2本の対角線の長さが等しい四角形」を選ぶ問題で、図形についての知識・理解をみる問題である。

[3] 解説

(1) の正答率は 88.6%であった(昨年度は 88.2%)。示された図を基に選択することは、よくできている。今後も、台形、ひし形、長方形、正方形など図形の構成要素や定義、性質に着目する授業展開が必要である。

(2) の正答率は今年度 71.4%であった。昨年度は 65.9%、一昨年度は 64.1%と、年々正答率が上がっている。直感ではなく、対角線の長さに着目できていると考えられる。図形においては、自ら線をかき加え、判断していこうとする態度を育てていくことが大切である。

また、台形の2本の対角線の長さが等しいと考えた誤答が合計 14.8%あった。対角線の長さではなく、対角線の交わり方ととらえたり、対角線の意味の理解が不十分であったりするためと考えられる。四角形の学習でも、これまでの図形の学習と同じように、構成要素に着目して、弁別・作図したり、身の回りから具体物を見つけたりする活動が大切である。

大問 14

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
25	14	(1)		○ ①	1		58.5
				②	2		2.6
				③	3		2.0
				④	4		33.7
				上記以外の解答	9		0.3
				無解答	0		2.9
26	14	(2)		○ (面)う	1		83.9
				(面)い, (面)か, (面)え, (面)お (順不同)	2		7.0
				うは正しいが明らかに面以外のものを書いている	3		0.1
				上記以外の解答	9		4.1
				無解答	0		4.9

[2] 出題のねらい

大問 14 は、「図形」領域の「直方体」について出題した。

(1) は、直方体の正しい展開図を選ぶ問題で、図形についての知識・理解をみる問題である。

(2) は、直方体の中で平行な面を選ぶ問題で、図形についての知識・理解をみる問題である。

[3] 解説

(1) は、直方体の正しい展開図を選ぶ問題で、正答率は 58.5% であった。一方、面のつながる順序を考慮せず、見慣れている十字型の図を選んだ誤答は、33.7% であった。見た目や直感のみで判断していると考えられる。例年同じような、十字型の図を選ぶ児童が多い結果となっている。引き続き、展開図を具体的にかき、組み立てたらどうなるか実際に経験する学習を通して、判断したことが正しいかどうか、筋道を立てて吟味する姿勢や態度を育てていくことが大切である。

(2) は、直方体のある面に平行な面を選ぶ問題で、正答率は 83.9% であった。昨年度は直方体のある面に垂直な面を選ぶ問題で、正答率は 78.0% であった。直方体の面の位置関係については、概ね理解できていると考えられる。今後も構成要素に着目して、立体を観察し、構成したり、分解したりする活動を低学年から通して行い、理解を深める指導を継続することが大切である。

大問 15

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
27	15			○	$\bigcirc \times 4 (= \triangle)$	1	56.1
				○	$4 \times \bigcirc (= \triangle)$	2	5.5
					○を使っていないもの	3	5.8
					上記以外の解答	9	22.8
					無解答	0	9.8

[2] 出題のねらい

大問 15 は、「数量関係」領域の「変わり方」を取り上げた。正方形の 1 辺の長さとおりの長さの関係を、表を基にして式に表すことができるかをみる問題である。1 辺の長さとおりの長さをそれぞれ \bigcirc 、 \triangle とし、表にも記号を入れることで、その意味を理解し易くした。また、「関係を式に表す」だけでは、さまざまな形での正答が存在し、児童が混乱することも考えられるため、関係式の一部を表す問題形式とした。主たる観点は、数学的な考え方である。

[3] 解説

正答率は 61.6% である。正方形の 1 辺の長さとおりの長さという、「2 つの数量の関係をとらえ易い」と思われる問題であったが、記号に表すこと・記号を使って数量関係を式に表すことには難しさがある。無解答率が 9.8% であることから、「表を横や縦に見てきまりを見つければよい」や「表の続きを考えればよい」などの方法の見通しをもてなかった児童がいることが分かる。

変わり方のきまりを見つけるには、表を横や縦に見て、「正方形の 1 辺の長さが 1 cm 増えるごとに周りの長さは何 cm 増えるのか」、「正方形の 1 辺の長さとおりの長さにはいつもどんな関係が成り立つのか」など、その規則性を発見していこうとする態度が大切になる。表の扱い方についても、「表をかかせる」指導ではなく「表を使ってきまりを見つける、表の良さを体感する」指導が重要になる。

また、日頃から、数感覚を磨いたり、きまりに気付いたり、きまりを見つけようとしたりする態度を育てていきたい。

大問 16

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
28	16			○	①②③を書いているもの。	1	36.9
				○	①②を書いているもの。	2	51.5
					①のみ または ①③のみを書いているもの。	3	1.7
					①と誤りを含む内容を書いているもの。	4	0.1
					②のみ または ②③のみを書いているもの。	5	0.2
					②と誤りを含む内容を書いているもの。	6	0.4
					上記以外の解答	9	2.1
					無解答	0	7.2

[2] 出題のねらい

大問 16 は、「数量関係」領域から「二次元表」を取り上げた。第 4 学年では、資料を 2 つの観点から分類整理し、折れ線グラフや二次元表に表す学習を行う。ここでは、二次元表の読み方に関する問題を出題した。二次元表に表された数値の意味を理解し、表の中の言葉を使って記述する問題である。主たる観点は、技能である。なお、正答の条件は、以下の①②③のすべて、または①②が書かれていることとした。

- ①生まれた年が 2002 年であること。
- ②性別が女であること。
- ③人数であること。

[3] 解説

正答率は 88.4% である。二次元表に表された数値の意味を理解し、表の中の言葉を使って記述することは概ねできていると言える。日常の指導が適切であり、その成果が現れていると考えられる。今後も、実際のデータを基に表に整理する学習を通して、各欄の数値の意味などについて理解できるように、分類方法を丁寧に指導していくことが大切である。また、日常の授業の中で、考え方や意味、理由などを説明する活動を通して、算数的表現はもちろんではあるが言語表現に目を向けていく必要もある。

二次元表については、他教科などでも目にする機会が多い。単に表の見方やかき方を定着させるだけでなく、3 年生での「買い物しらべ」など、物事を分類整理する良さを味わわせたり、論理的に考える力を伸ばしたりすることが大切である。

大問 17

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
29	17	(1)		○	$7 \times 8 - 3 \times 6 (=38)$	1	53.5
				○	$7 \times 8 (=56)$, $3 \times 6 (=18)$, $56 - 18 (=38)$	2	5.0
				○	$56 - 18 (=38)$	3	1.9
					$7 \times 8 (=56)$, $3 \times 6 (=18)$	4	0.0
					類型2や類型3の考え方で立式しているが、計算を間違え、誤った式を書いているもの。	5	0.0
					答えは38になるが、図と説明に合った式ではないもの	6	18.5
					上記以外の解答	9	7.9
					無解答	0	13.1
				30		(2)	
○	①②③を満たしているもの。	2	5.1				
○	①②④を満たしているもの。	3	0.5				
○	①③④を満たしているもの。	4	11.0				
	①②を満たしているもの。	5	0.2				
	①③を満たしているもの。	6	4.3				
	図の正誤を問わず、示された式の操作のみを説明しているもの。	7	2.7				
	①を満たしていて、説明が無解答のもの。	8	1.2				
	上記以外の解答	9	29.9				
	無解答	0	13.7				

[2] 出題のねらい

大問 17 は、「量と測定」領域から「複合図形の面積」を 2 問取り上げた。いずれも主たる観点は数学的な考え方である。

(1) は図と文章による説明から複合図形の面積の求め方を読み取り、式に表す問題である。

(2) は提示された式から複合図形の面積の求め方を読み取り、図に表し文章で説明する問題である。正答の条件は、以下の①②③④のすべて、または①②③、①②④、①③④が書かれていることとした。

① 図に線をかき込み、 $3 \text{ cm} \times 2 \text{ cm}$ 、 $4 \text{ cm} \times 8 \text{ cm}$ で面積が求められる 2 つの長方形に分けている。

② 「長方形」だととらえたことを説明している。

③ 図形を 2 つに「分けた」ことを説明している。

④ 2 つを「合わせて」面積を求めたことを説明している。

[3] 解説

(1) の正答率は 60.4%である。図と文章による説明から求め方を読み取り、式に表すなど、学習指導要領で大切にされている思考力・判断力・表現力による課題解決は、今後も課題となるだろう。今後も日常の授業で、友だちの考えを読み取ったり、それを自分の言葉で説明したりする活動を充実させていく必要がある。

(2) の正答率は 48.1%である。昨年度の 42.0%よりもわずかに増えたが、正答の中でも②がないもの(不十分な正答)は昨年度の 19.7%から 11.0%へと減少し、正答の条件①②③④のすべてを記入しているものが昨年度の 15.5%から 31.5%へと倍増した。日常の授業では、児童が図を使いながら「ここが 3×2 で 6 cm^2 で…」のように「ここが…」などと説明する。その中で、既習である「長方形の面積」を基にして考えていることを児童に意識させている指導の成果が現れていると考えられる。また、示された式の操作のみを説明している誤答は昨年度の 24.1%から 2.7%に大きく減少した。これは、多くの学校での日常的な指導が、課題を「処理する」という観点から根拠を明らかにして課題を「解決する」という観点へと向かってきている結果だと言える。

今後も、与えられた図を式に表して処理する学習にとどまることなく、図と数や式を相互に結び付ける学習を積み重ねることが大切である。また、図を使って式の意味を説明する活動や、式を基にして図を考える活動を、これからも重視していくことが必要である。

(5) 今後の指導にあたって

○数と計算【大問1(1)～(4)(6)・2・3・4・5・8】

「数と計算」は、整数、小数、分数などの数の意味と表し方、数の計算などによって構成されている領域で、平均正答率は、65.9%であった。内容を見ると、小数と整数のたし算や、小数と整数のかけ算、分数を単位分数のいくつ分かで表す問題は、日頃の指導の成果から概ね満足できる結果であった。

一方、小数と整数のわり算の正答率は、昨年度よりも少しは上がったものの、まだまだ低い状態となっている。どうやって計算するのか具体的な問題場面で考え、学習することが大切である。また、繰り下がりのある小数同士のひき算で、位取りを間違えた誤答が多いことから、小数の計算における処理技能の定着を図る必要がある。分数については、数直線上に表された分数を読み取ることに引き続き課題がある。1をいくつかに等分した何個分かの意味の指導を大切に、整数と同様に量を表す数として数直線に表したり読み取ったりする力を付けていきたい。大きな数の十進位取り記数法については、単位となる数を意識していくことを指導していくことが必要である。倍とわり算の問題では、数量関係をテープ図や線分図に表したり読み取ったりする指導が今後も必要である。

「数と計算」の内容は、「量と測定」、「数量関係」などの他の領域と深くかかわりがあるので、重点を置いて指導していく必要がある。指導にあたっては、数の形式的な処理だけでなく、十進位取り記数法、0.1や単位分数の何個分かなどの数の意味もきちんとおさえていくことが大切である。また、具体的な問題場面で考えていくことも重要である。さらに、わり算や分数、倍とわり算などの指導では、図や数直線などを用いて実感を伴って、数量関係がとらえられるようにすることが大切である。

キーワード：図や数直線、十進位取り記数法、意味理解

○量と測定【大問10・11・17】

「量と測定」は、身の回りにおけるいろいろな量の意味、単位を用いての量の表し方、量の測定などによって構成されている領域である。平均正答率は、68.6%であった。面積や角度を求める問題は概ね満足できる結果であった。日々の指導の成果が現れている。一方、正方形の面積を求める問題の正答率は長方形と比べると、例年低い結果となっている。引き続き、文章で示された正方形の定義を基に、自ら場面を図に表して考えてみようとする力を培っていきたい。

面積の量感に関する問題や複合図形の面積を求める問題の正答率は、今年度も低かった。引き続き、日頃から実測したり体感したり比較したりするなど、量に対する感覚を育てていくことが大切である。また、求積の場面では、与えられた図から式を立て面積を求めるだけでなく、普段の授業の中で、友だちの式や図を読み取って、その意味や考え方を説明するなど、図と式を相互に結び付ける活動を積極的に取り入れる指導を大切にしたい。

キーワード：図と式の相互関係、量感、操作、図形の学習との関連

○図形【大問12・13・14】

「図形」は、基本的な図形の意味、構成などに関する領域である。平均正答率は、72.9%であった。四角形の辺の長さに関する問題や、直方体の面の位置関係に関する問題は、概ね理解できていると言える。その一方で、三角定規を用いない平行四辺形の作図をする問題や直方体の展開図を選択する問題では、課題が残る。

図形の学習は、辺、頂点、角、面などの構成要素に着目して図形を分類し、各図形を定義し、理解を深めていくことが大切である。低学年の頃から、構成要素に着目し、いろいろな図形を弁別したり作図したりして、図形に親しみ、豊かな感覚を育てる学習を取り入れたい。

作図の学習では、図形の定義や性質に基づいて、自分で作図の仕方を考える学習活動を大切にしていきたい。また、そこで考え出した方法が妥当かどうか、図形の定義や性質に基づいて根拠を説明する言語活動も充実させていきたい。作図の仕方の手順の理解だけでなく、図形の定義や性質に基づいて、何通りもの作図の仕方を筋道立てて考えるようになる指導が大切である。

キーワード：図形の構成要素、定義や性質に基づいて作図する

○数量関係【大問1(5)・6・7・9・15・16】

「数量関係」は、数量や図形を取り扱う際の共通の考え方や方法などによって構成される領域である。平均正答率は、63.3%であった。二次元表を読み取る問題は、今年度も高い正答率となった。日頃の指導の成果が現れている。今後も、二次元表については、表を読み取るとともに、実際に二次元表をかく活動を通して、二次元表の意味の理解を深めていきたい。

一方、伴って変わる2つの数量の関係をとらえる問題は、正答率が下がった。表の続きを自分で作ってみたり、表を縦や横に見て規則性を発見したりしていこうとする態度、数のある数の和差積商としてみるなどの数に対する感覚を豊かにしていきたい。

また、文章中の数量関係を正しく式に表す問題では、正答率は29.3%と非常に低かった。問題文に「1人に50まいずつ、4人に配ります。」とあるので、わり算と考えた誤答が合計62.9%もあった。日頃から言葉だけで演算決定をするのではなく、問題場面を整理し、図などに表してから考えたり、文章を正確に読み取ったりするなどの、指導の工夫が必要と思われる。

式の指導では、計算方法だけでなく、立式の根拠を問い、どうしてその式になったのか、線分図や数直線などに表して考えるようにする指導が大切である。いろいろな場面や問題を式で表したり、式から場面や一般的な関係を読み取ったりする学習活動を日頃から行っていく必要がある。

計算の工夫に関する問題では、複合図形の面積を求める場面など、分配法則を用いて計算を工夫する良さを感じられる課題の設定を行うなどの必要がある。

キーワード：計算の工夫をする良さ、立式の根拠、式を読む

◎全体を通して

観点別に平均正答率を見てみると、「数学的な考え方」59.3%、「数量や図形についての技能」66.3%、「数量や図形についての知識・理解」69.4%であった。

「数学的な考え方」は、児童が新たな問題場面に直面し、既に獲得した知識や技能と関連させて考えたり、よりよい解決方法を吟味・検討したりする過程を大切にする中で育まれる。そして、児童が「知識・理解」、「技能」の力を活用し、主体的に粘り強く考えていくとき、「数学的な考え方」は大きな力を発揮するものと思われる。

これからも各観点を相互に関係付けながらバランスよく育んでいくことが大切である。

〈数学的な考え方を育む授業づくりのポイント〉

- 1 学習したことを用いて筋道立てて考え、言葉・数・式・図・表・グラフなどで表現する。
- 2 友だちの考え（式、図など）を読み取る。
- 3 自分や友だちの考えから相違点を見つけたり、整理したりして、考えと考えを結び付ける。
- 4 友だちと一緒に創り上げる。
（より単純に、より簡単に、より正確に、より便利に、より美しく）
- 5 どのように考えることが大切だったか振り返る。

教材研究の大切さはさることながら、児童同士が友だちの考えを読み取ったり、自分と友だちの考えを比べたりすることのできるような場の設定や授業構成、教師の言葉かけが大切である。児童の数学的な考え方を育てるためにも、日々の授業の仕方を考えていきたい。そして、何より、その授業で一体何を指導し、どんな力を身に付けさせたいのか、という指導者としてのねらいを明確にもって指導にあたっていきたい。

3. 生活や学習についてのアンケート

調査の概要

1 調査の目的

川崎市の公立小学校に在籍する児童の生活や学習についての意識や実態を把握することにより、各学校における教育課程や指導方法等の改善に資するとともに、本市学校教育全体の充実に向けた基礎資料として活用する。

2 調査の設計

(1) 調査実施校及び対象者

市内公立小学校第5学年に在籍する全児童 *調査当日の欠席者を除く

(2) 調査校数及び回答者数

学校数：113校 回答者数：11,390名

(3) 調査実施日

平成24年5月8日（火）に川崎市学習状況調査の一環として、各教科の調査後に実施

(4) 調査方法

記名の質問紙法調査による

(5) 調査内容及び設問数

児童の生活と学習に関する意識と実態についての調査 45問

(6) 設問の主な観点及び視点

	観 点	視 点
1	学校生活に対する意識	楽しさ
2	学習全般に対する意識	好感度、必要性、理由、相談相手
3	各教科等に対する意識	好感度、理解度、有用感
4	家庭学習の実態	学習時間、学習内容、通塾
5	家庭生活の実態	睡眠時間、朝食の摂取、学習の準備、 テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間 1ヶ月の読書量、携帯電話の有無
6	各教科等に対する意識・実態	学習内容・方法に対する好感度 日常生活への活用や関連 等

3 調査結果の集計・分析にあたっての留意事項

(1) 単純集計及び分析

- ① 2の(6)にある「設問の観点」ごとに項立てを行い、分析を行った。
- ② 設問ごとに集計結果をグラフで表し、考察を加えた。
- ③ 一部の設問では昨年度・一昨年度の結果を併記して、経年比較分析を行った。

(2) クロス集計及び分析

いくつかの設問については、クロス集計という手法を用いて分析した。これは、設問Aでの選択肢ごとに設問Bの回答を集計することで、設問Aでの回答選択の違いを設問Bで説明する方法である。このことにより、設問Aと設問Bの二つの設問の間の関連や相関関係などを分析した。なお、クロス集計では、集計の都合上無回答者を除いて集計した。

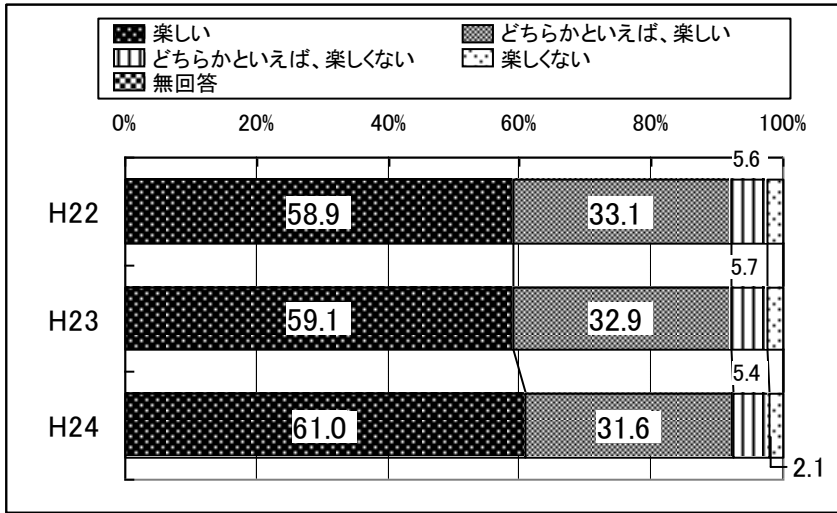
(3) 各グラフには、見易さを考慮して調査結果の割合の数値を記入しきれていないものがある。

調査結果と分析

単純集計

1 学校生活に対する意識

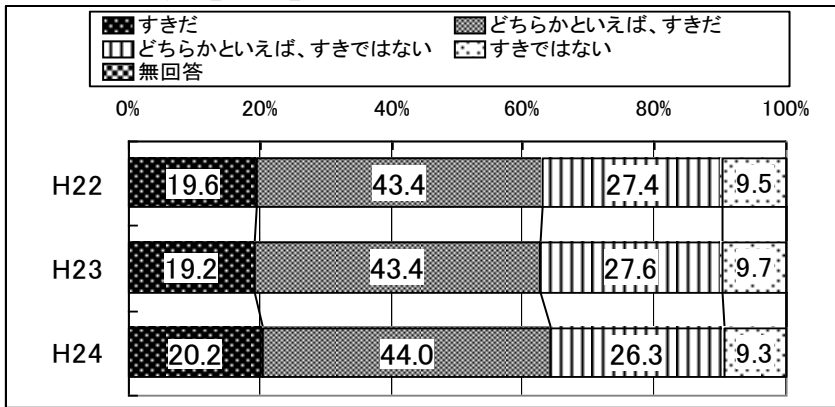
学校生活の楽しさ【問1】



○61.0%の児童が、学校生活は「楽しい」と回答しており、「どちらかといえば、楽しい」を合わせると92.6%となり、9割を超える。
○23年度に比べ、「楽しい」と「どちらかといえば、楽しい」を合わせた回答は0.6ポイント増加している。

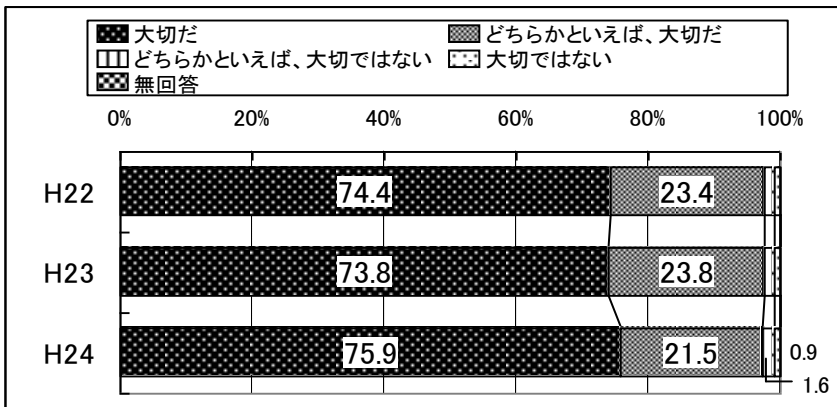
2 学習全般に対する意識

(1) 好感度【問2】



○20.2%の児童が、勉強は「すきだ」と回答しており、「どちらかといえば、すきだ」を合わせると64.2%である。
○23年度に比べ、「すきだ」と「どちらかといえば、すきだ」を合わせた回答は1.6ポイント増加している。

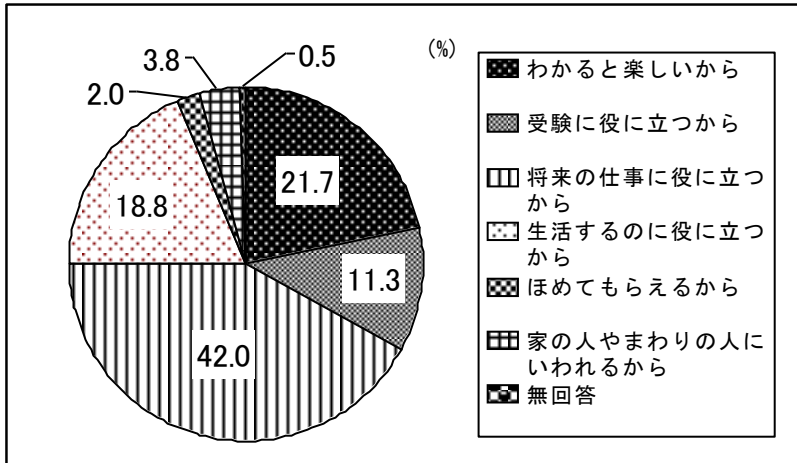
(2) 必要性【問3】



○75.9%の児童が、勉強は「大切だ」と回答しており、「どちらかといえば、大切だ」を合わせると97.4%である。
○23年度に比べ、勉強は「大切だ」と「どちらかといえば、大切だ」を合わせた回答は0.2ポイント減少している。

II 調査結果の概要

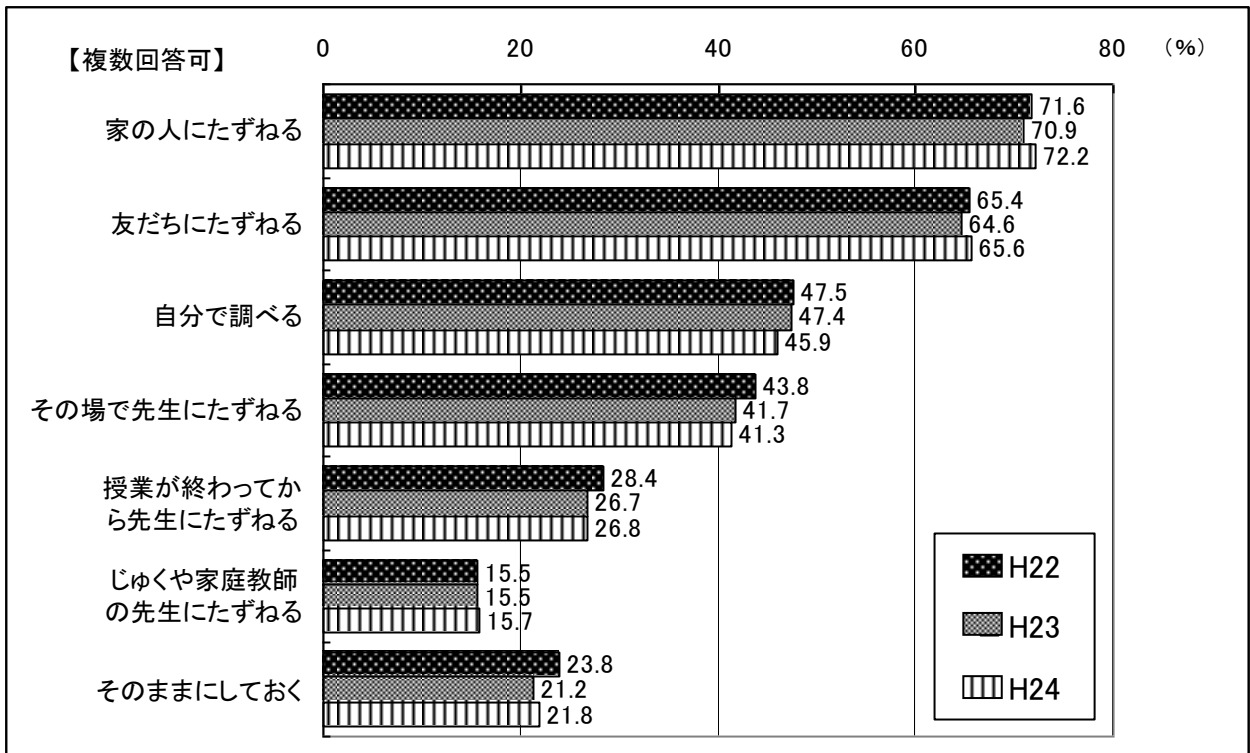
(3) 理由【問4】



○勉強する一番の理由として、「将来の仕事に役に立つから」、「生活するのに役に立つから」を合わせると60.8%で、約6割である。

○「わかると楽しいから」(21.7%)という回答も比較的多い。

(4) 相談相手【問19】



○「授業の中で、わからないことがあったときに相談する相手」として、「家の人」を選んでいる児童が72.2%と最も多く、「友だち」の65.6%が続いている。

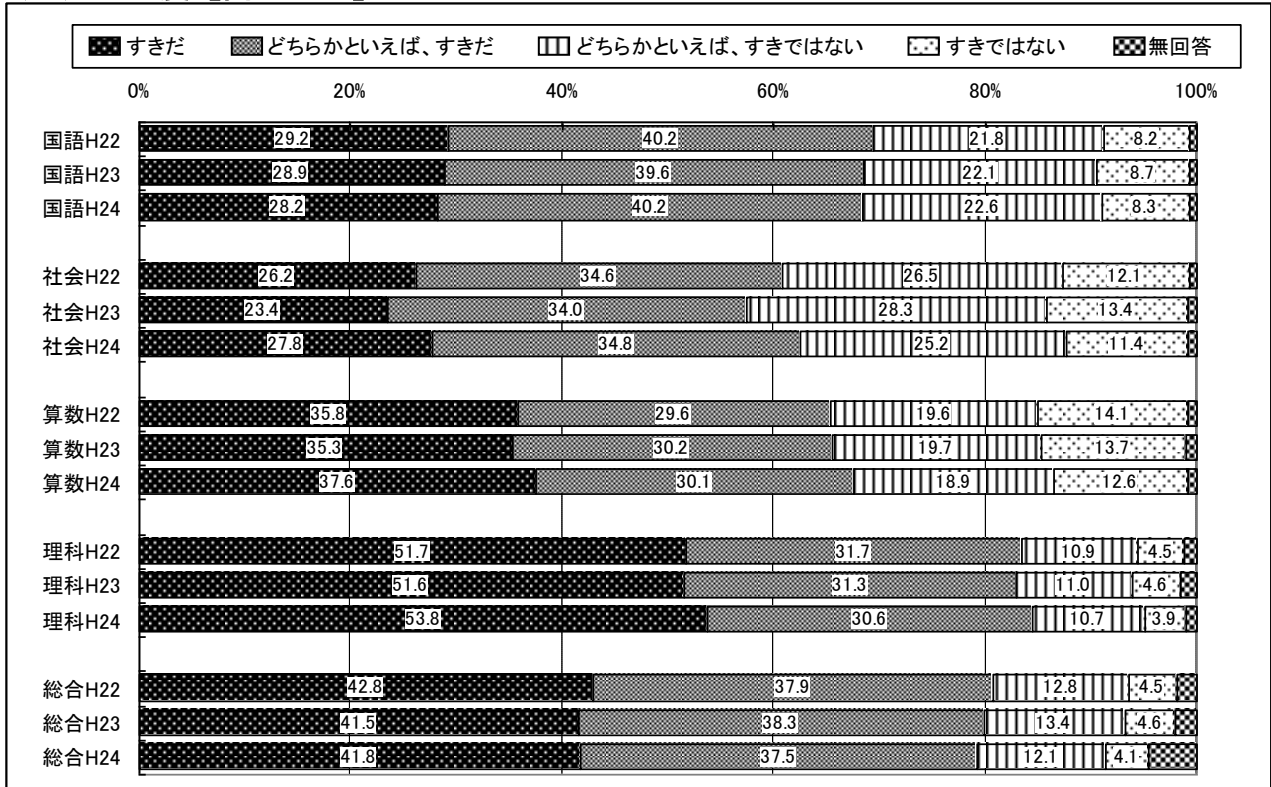
○「その場で先生にたずねる」、「授業が終わってから先生にたずねる」、「じゅくや家庭教師の先生にたずねる」は23年度とほぼ同値である。

○23年度に比べ、「家の人にたずねる」「友だちにたずねる」という回答が増加している。

○23年度に比べ、「そのままにしておく」という回答が0.6ポイント増加している。

3 各教科等に対する意識

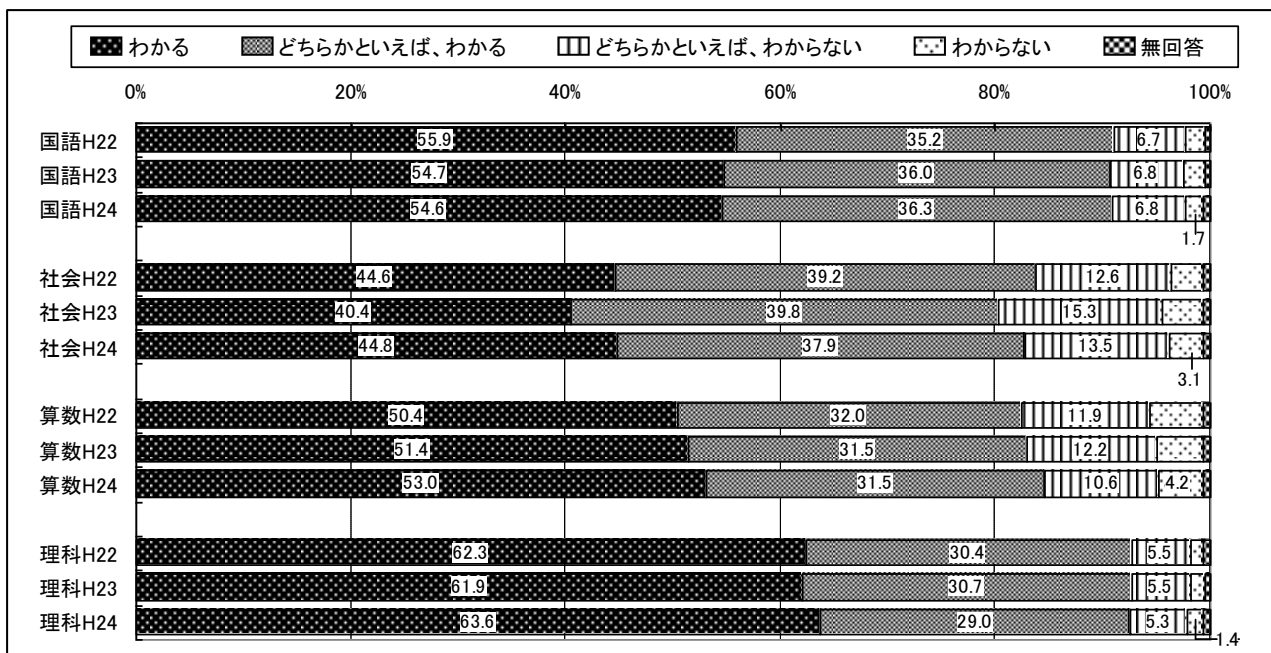
(1) 好感度【問5～9】



○好感度（「好きだ」と「どちらかといえば、好きだ」を合わせた割合）が最も高いのは、「理科」で84.4%、次に、「総合」（79.3%）、「国語」（68.4%）、「算数」（67.7%）、「社会」（62.6%）と続いている。

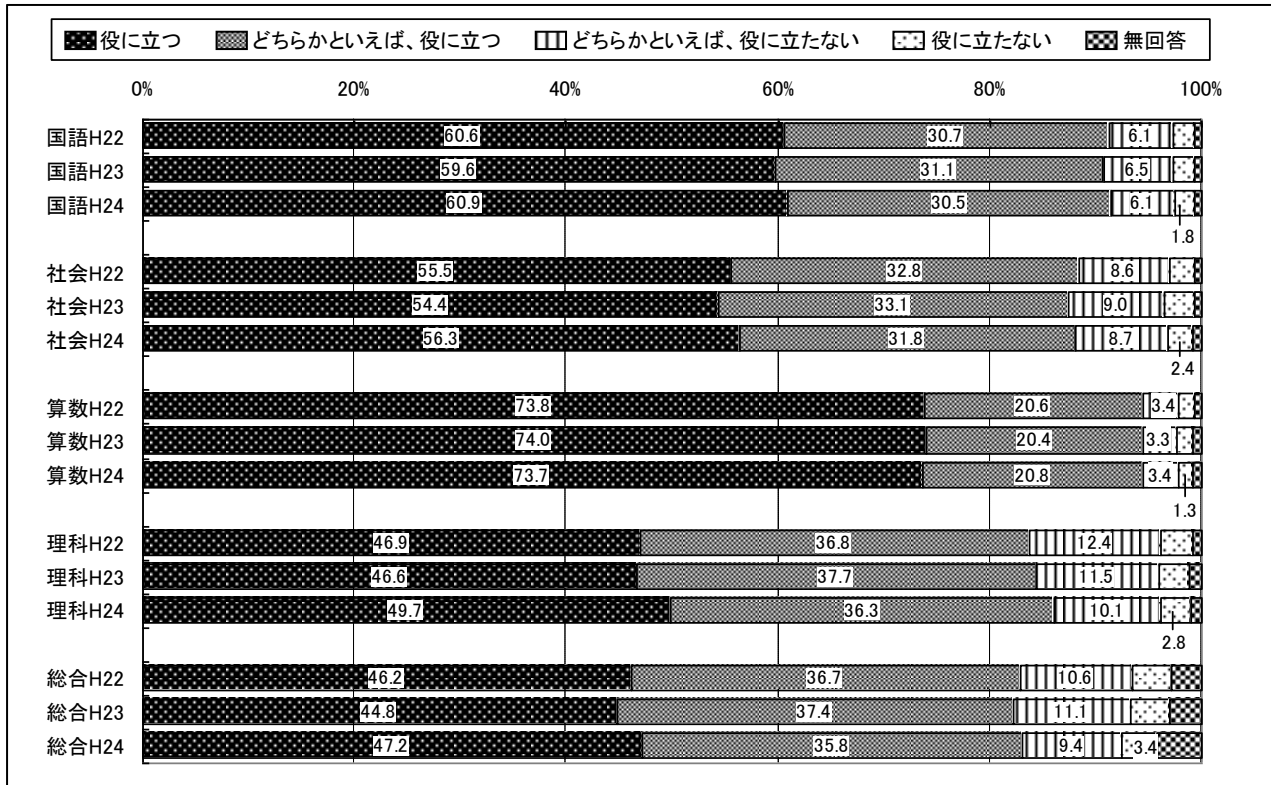
○過去3年間の各教科平均は、「国語」が68.8%、「社会」が60.3%、「算数」が66.2%、「理科」が83.6%、「総合」が79.9%である。

(2) 理解度【問10～13】



○理解度（「わかる」と「どちらかといえば、わかる」を合わせた割合）が最も高いのは、「理科」で92.6%、次に、「国語」（90.9%）、「算数」（84.5%）、「社会」（82.7%）と続いている。
 ○過去3年間の各教科平均は、「国語」が90.9%、「社会」が82.2%、「算数」が83.3%、「理科」が92.6%である。

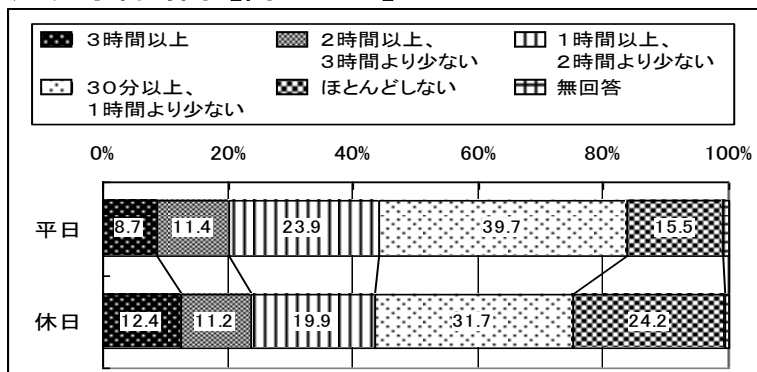
(3) 有用感【問14~18】



○学習に対する有用感（「役に立つ」と「どちらかといえば、役に立つ」を合わせた割合）が最も高いのは、「算数」で94.5%、次に、「国語」（91.4%）、「社会」（88.1%）、「理科」（86.0%）、「総合」（83.0%）と続いている。
 ○過去3年間の各教科平均は、「国語」が91.1%、「社会」が88.0%、「算数」が94.4%、「理科」が84.7%、「総合」が82.7%である。

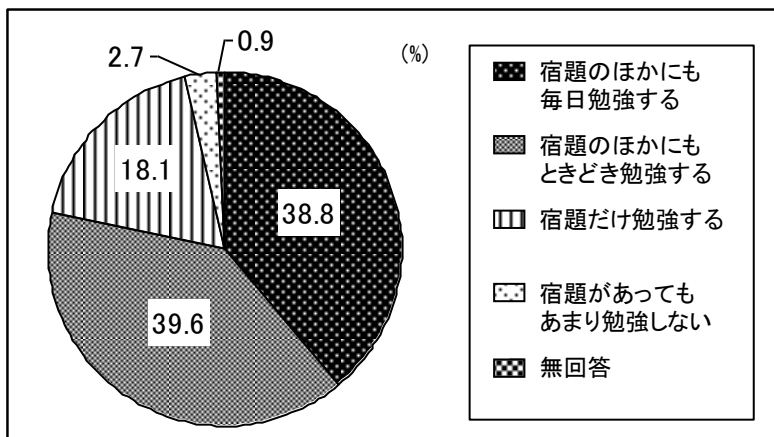
4 家庭学習の実態

(1) 学習時間【問20~21】



○平日、休日とも「30分以上、1時間より少ない」が最も多く、「1時間以上、2時間より少ない」を合わせると、平日では63.6%、休日では51.6%である。
 ○「ほとんどしない」という回答は、平日は15.5%、休日には24.2%であり、休日の方が8.7ポイント高い。一方、「3時間以上」と回答した比較的勉強時間が長い児童の割合も、休日の方が平日より3.7ポイント高い。

(2) 学習内容【問 22】



○「宿題のほかにもときどき勉強する」が 39.6%で最も多く、「宿題のほかに毎日勉強する」が 38.8%が続いている。

○「宿題があってもあまり勉強しない」と回答した児童は 2.7%である。

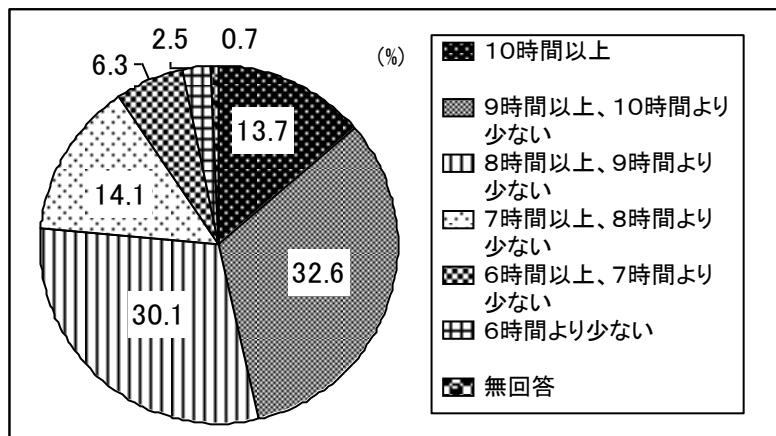
(3) 通塾【問 23】

	通っている (%)	通っていない (%)	無回答 (%)
H22	51.2	47.5	1.4
H23	51.5	47.3	1.2
H24	52.4	46.8	0.8

○学習塾に通っている児童は 52.4%で、23年度に比べ、0.9ポイント増加している。

5 家庭生活の実態

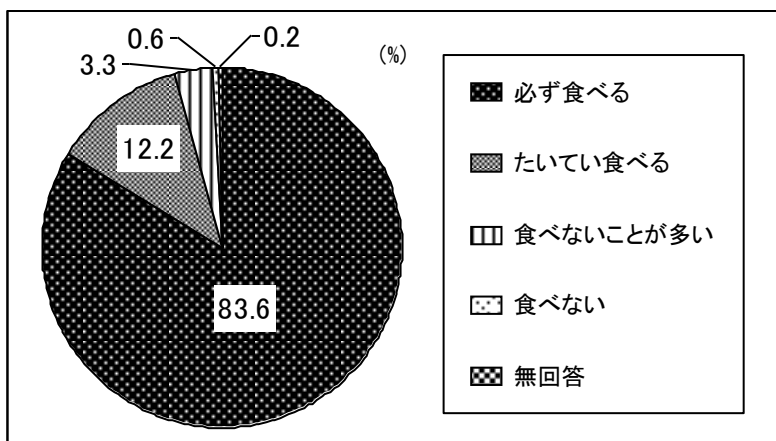
(1) 睡眠時間【問 24】



○「9時間以上、10時間より少ない」(32.6%)、「8時間以上、9時間より少ない」(30.1%)という回答が多く、約6割の児童は睡眠時間が「8～10時間」である。

○睡眠時間が7時間未満の児童の割合は 8.8%で、1割未満である。

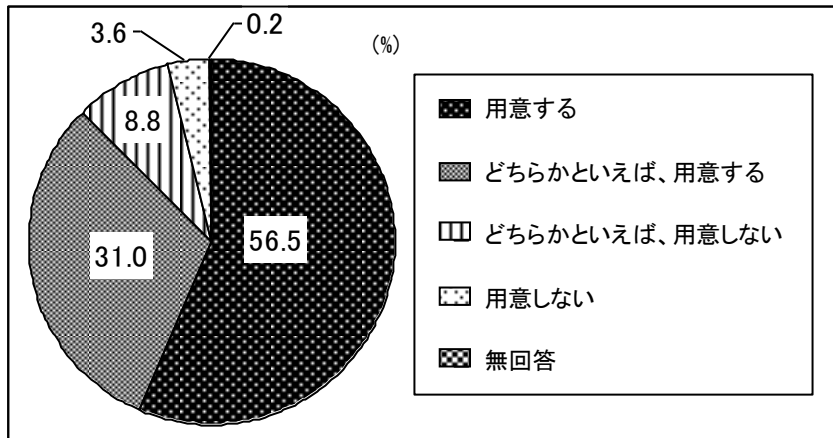
(2) 朝食の摂取【問 25】



○「必ず食べる」と回答している児童の割合は 83.6%であり、「たいてい食べる」を合わせると、95.8%である。

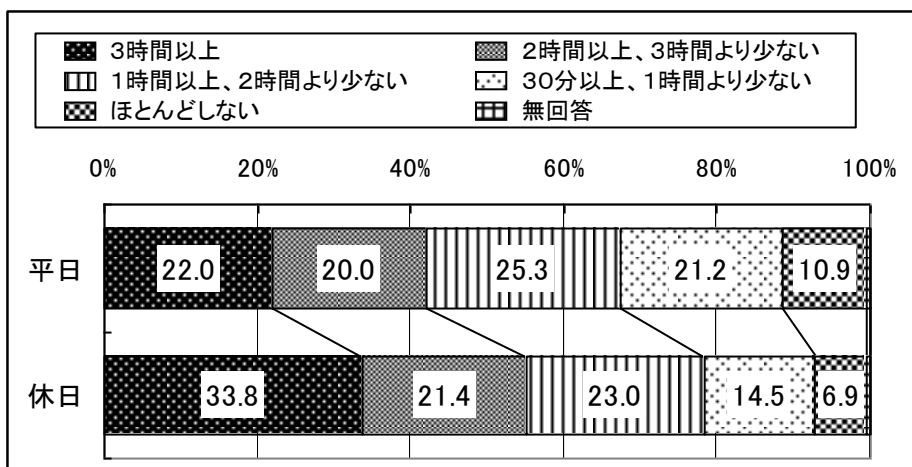
○「食べない」と回答した児童は 0.6%である。

(3) 学習の準備【問26】



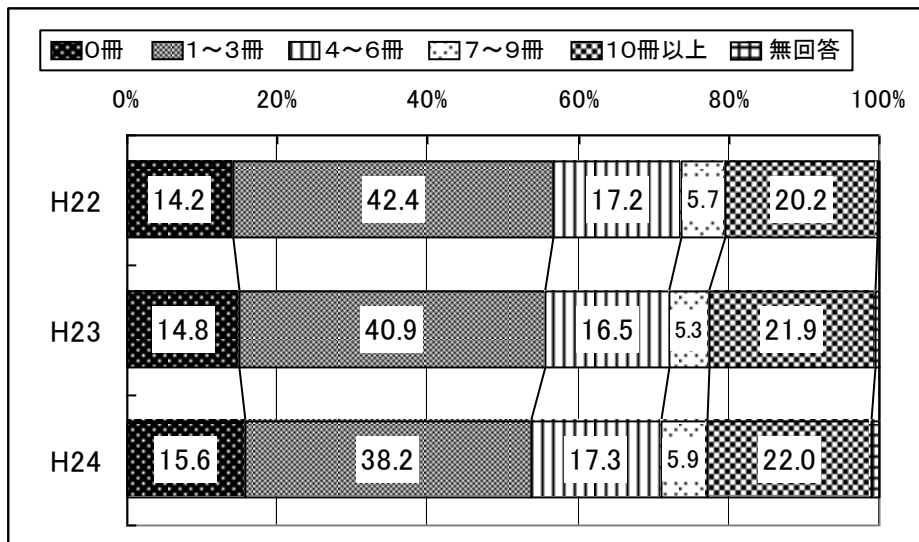
○学校に持って行くものを前日に「用意する」と回答した児童の割合は56.5%であり、「どちらかといえば、用意する」を合わせると、87.5%である。

(4) テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間【問27～28】



○視聴・実施時間が「1時間以上」の回答の合計は、平日：67.3%、休日：78.2%である。
○「3時間以上」は、平日は22.0%、休日は33.8%で、23年度に比べ、それぞれ1.5ポイント、2.3ポイント増加している。
(P.70 問27, 28を参照)

(5) 1ヶ月の読書量【問30】



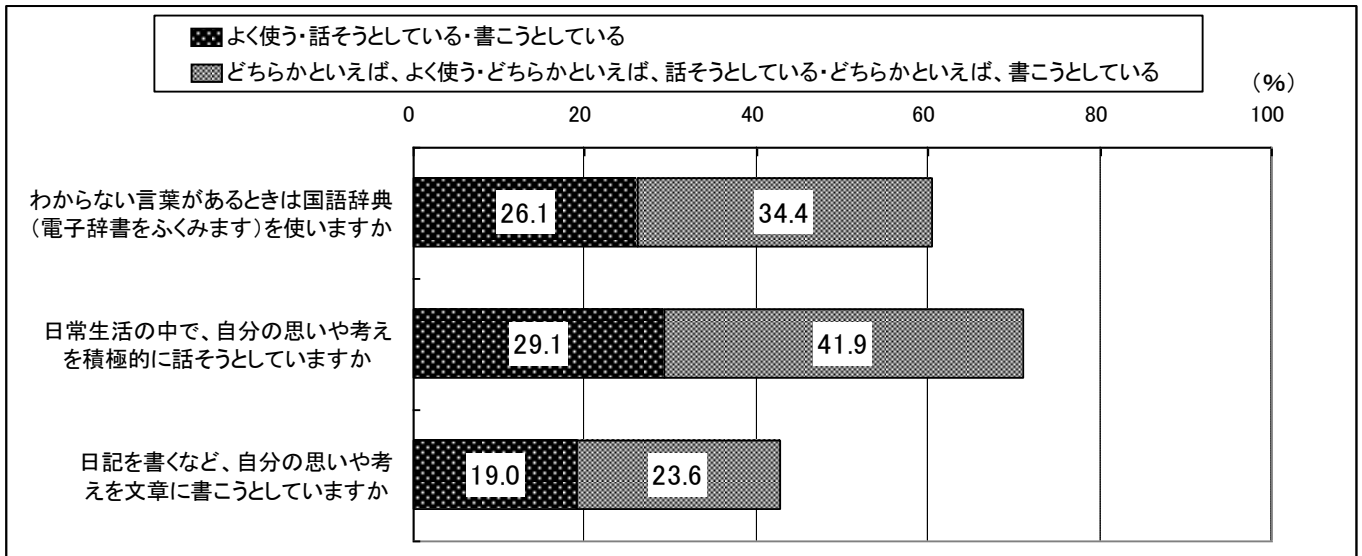
	平均冊数
H22	5.1冊
H23	5.4冊
H24	5.4冊

*31冊以上の回答は集計から除外しています。

○「1～3冊」が38.2%で最も多く、「10冊以上」が22.0%、「4～6冊」が17.3%である。1冊も読まない児童の割合は15.6%である。
○「10冊以上」は23年度とほぼ同値である。「0冊」は0.8ポイント増加している。平均冊数は23年度と同じ5.4冊である。

6 各教科等に対する意識・実態

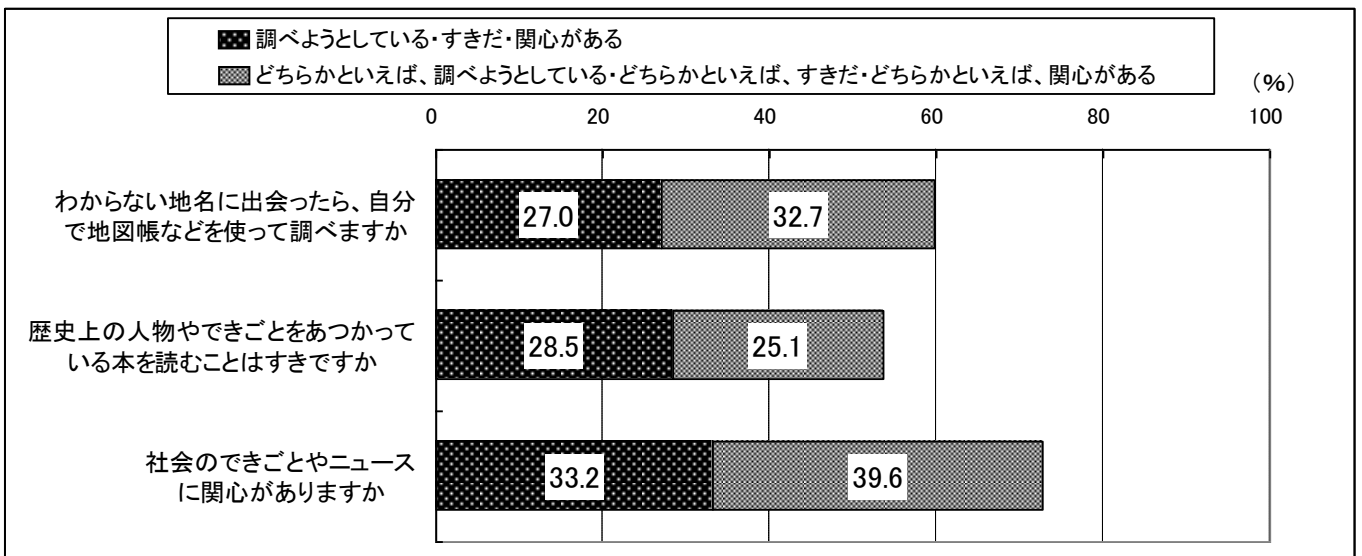
(1) 国語【問 31～33】



○分からない言葉があるときに国語辞典を使う児童は、「どちらかといえば」を含めると、60.5%である。

○「自分の思いや考え」を積極的に話そうとしている児童、文章に書こうとしている児童は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ71.0%、42.6%である。「書くこと」よりも「話すこと」で自分の思いや考えを伝えようとしている児童が多い。

(2) 社会【問 34～36】



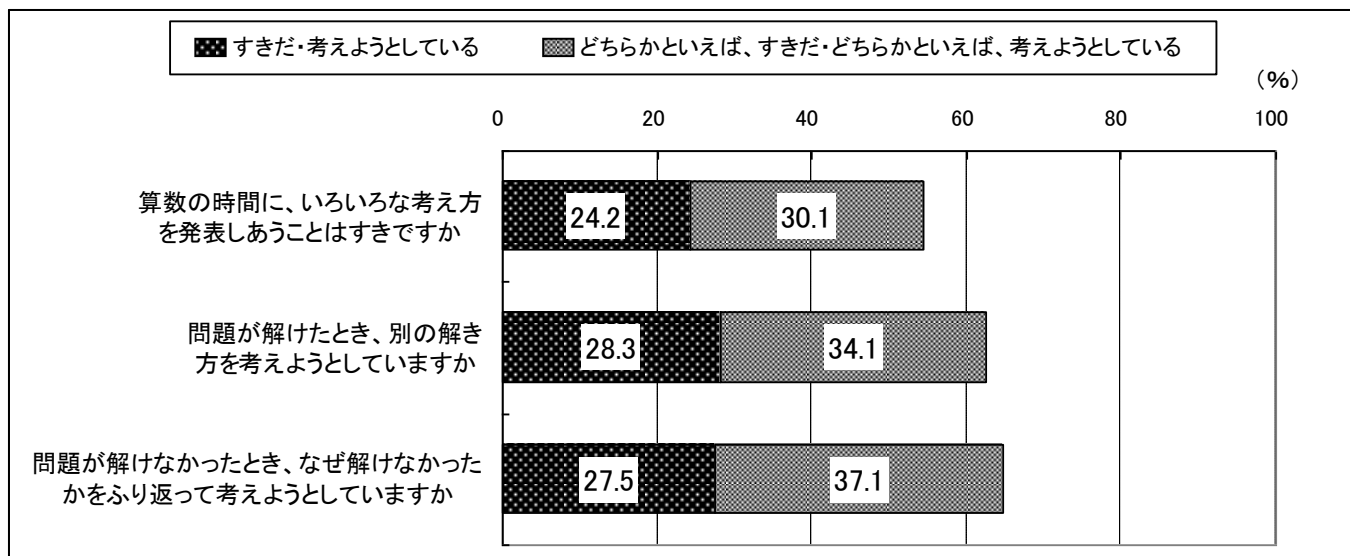
○自分で地図帳などを使って地名を調べる児童は、「どちらかといえば」を含めると、59.7%である。

○歴史に関する本を読むことが好きな児童は、「どちらかといえば」を含めると、53.6%である。

○社会事象やニュースに関心がある児童は多く、「どちらかといえば」を含めると、72.8%である。

II 調査結果の概要

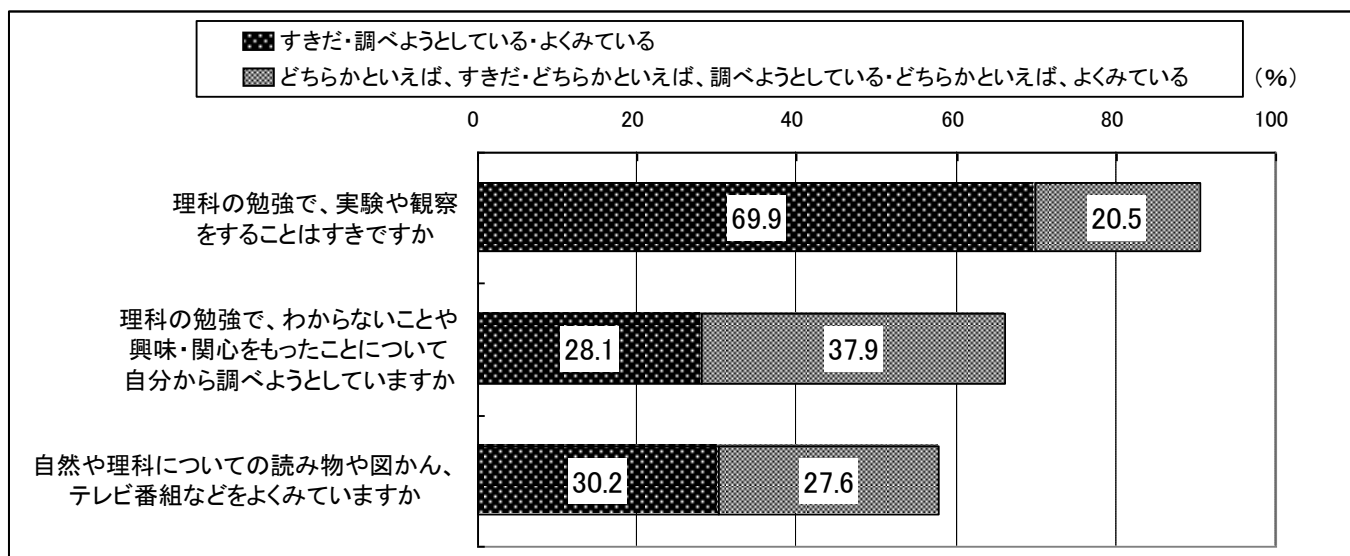
(3) 算数【問 37~39】



○いろいろな考え方を発表しあうことが好きな児童は、「どちらかといえば」を含めると、54.3%である。

○問題が解けたときに別の解き方を考えようとしている児童、解けなかったときにその理由を考えようとしている児童は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ 62.4%、64.6%である。

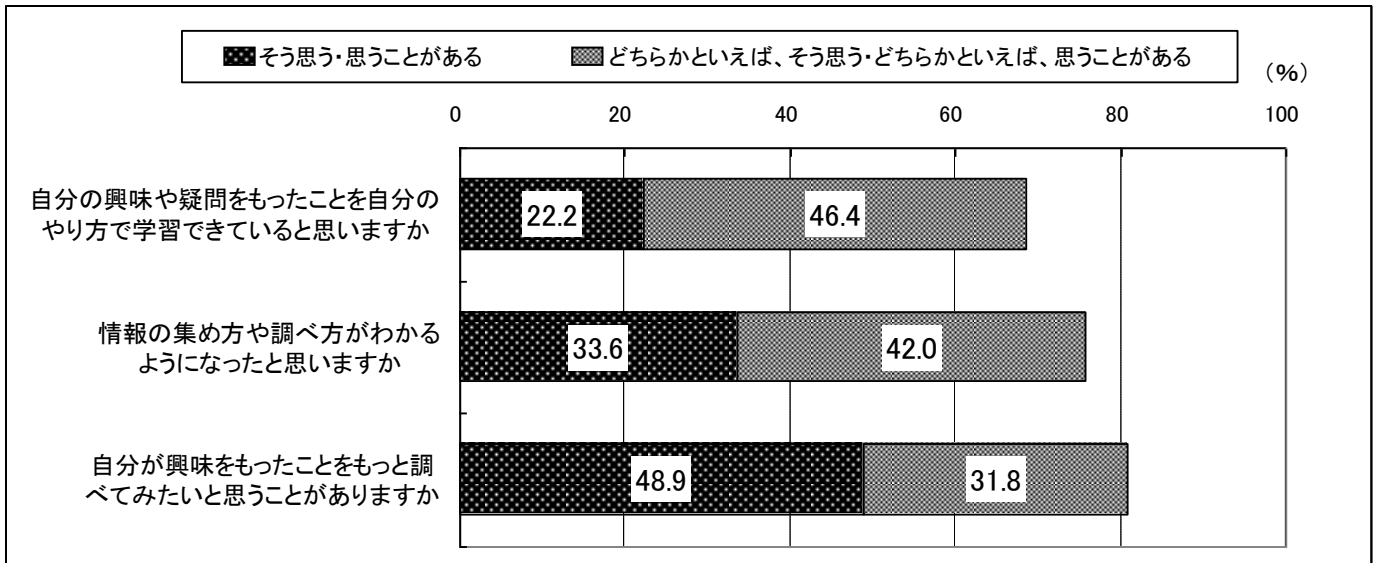
(4) 理科【問 40~42】



○理科の実験や観察の授業が好きな児童が多く、「好きだ」が 69.9%、「どちらかといえば、好きだ」を含めると、90.4%である。

○分からないことや興味・関心をもったことを自分から調べようとする児童、自然や理科に関する読み物や図鑑、テレビ番組などをみている児童は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ 66.0%、57.8%である。

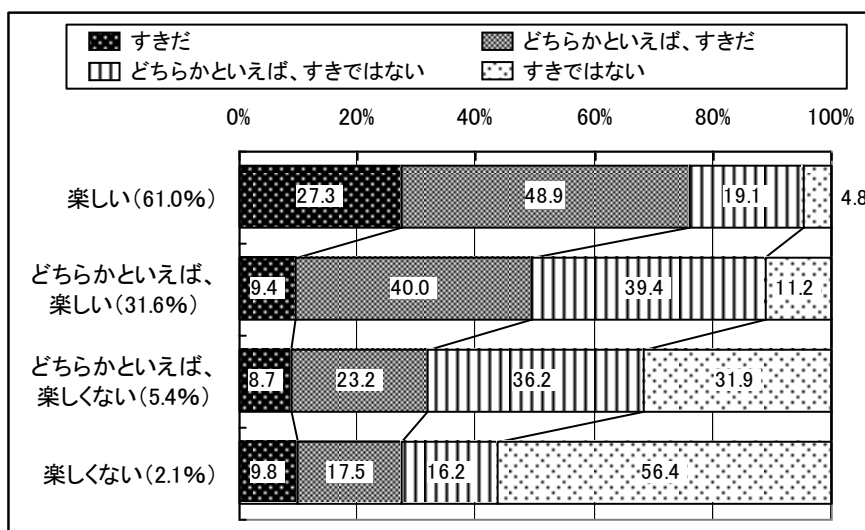
(5) 総合的な学習の時間【問 43~45】



- 総合的な学習の時間の中で、「興味や疑問をもったことを自分のやり方で学習できている」と思っている児童、「情報の集め方や調べ方がわかるようになった」と思っている児童は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ 68.6%、75.6%である。
- 「興味をもったことについてもっと調べてみたいと思う」と回答している児童は多く、「どちらかといえば」を含めると、80.7%である。

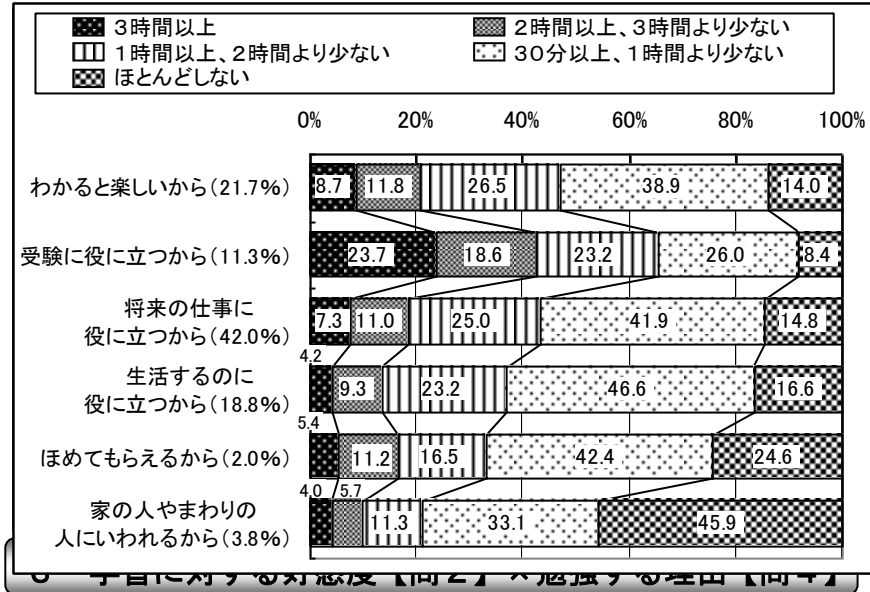
クロス集計

1 学校生活の楽しさ【問 1】 × 学習に対する好感度【問 2】



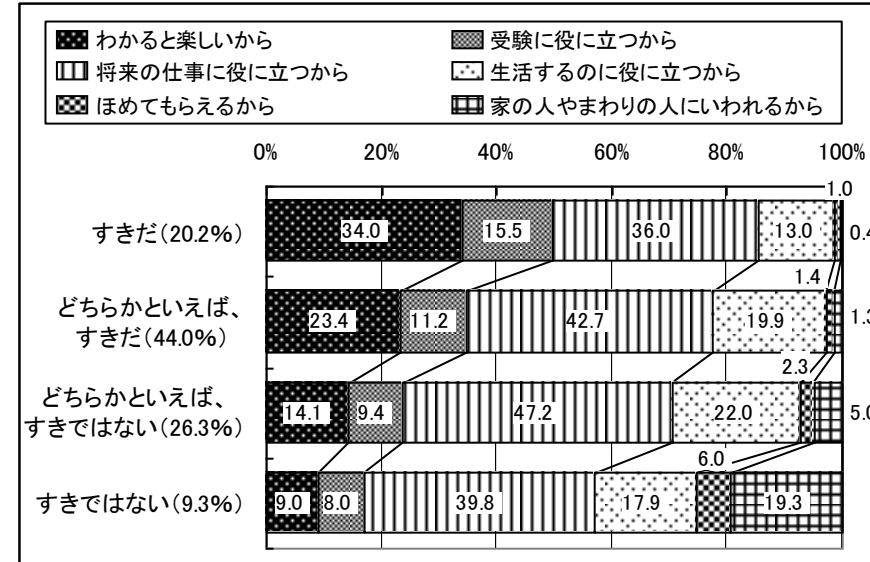
- 学校生活が楽しい児童ほど、学習に対する好感度が高い傾向がある。
- 学校生活は「楽しくない」と回答した児童の 72.6%、「どちらかといえば、楽しくない」と回答した児童の 68.1%が勉強は「すきではない」、「どちらかといえば、すきではない」と答えている。

2 学校生活の楽しさ【問1】×朝食の摂取【問25】



○学校生活が楽しい児童は、朝食の摂取状況が良好な状況にある。

○学校生活は「楽しくない」と回答した児童の朝食を必ず食べる割合は、「楽しい」と答えた児童の朝食を必ず食べる割合よりも20.1ポイント低い。

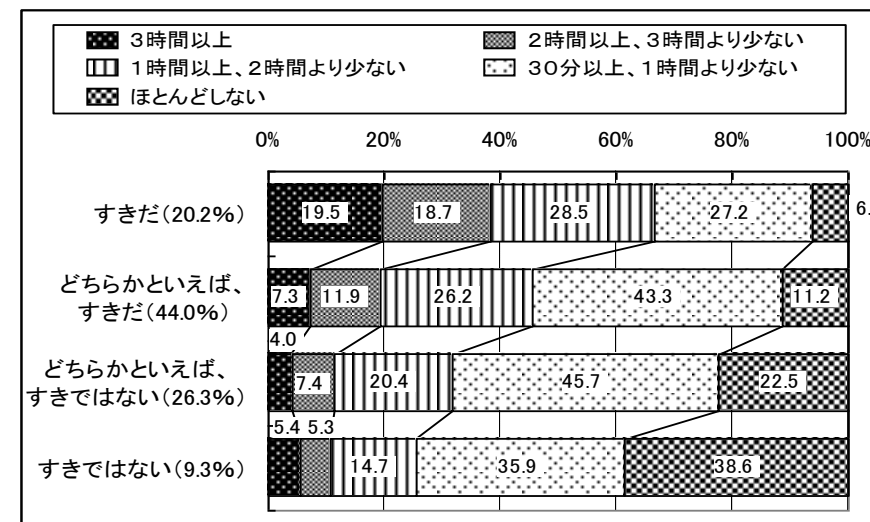


○好感度が高い児童ほど、「わかると楽しいから」と回答する割合が多い。

「好きだ」と回答した児童と「好きではない」と答えた児童では25.0ポイントの差がある。

○「好きではない」と回答した児童の19.3%が勉強する理由として、「家の人やまわりの人にいわれるから」を選んでおり、他と比べて多い。

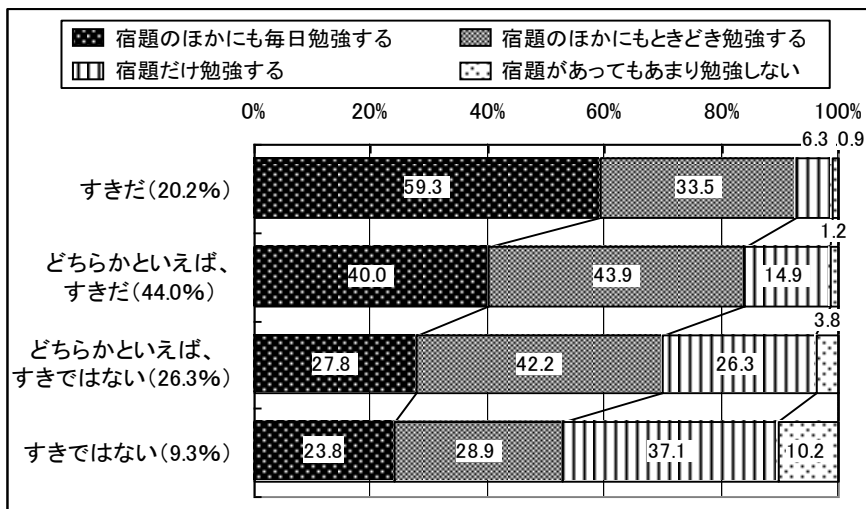
4 学習に対する好感度【問2】×家庭学習時間（平日）【問20】



○好感度が高い児童ほど、平日の家庭学習時間が長い傾向にある。

○勉強が「好きではない」と回答した児童の約6割が30分以上の家庭学習を行っている。

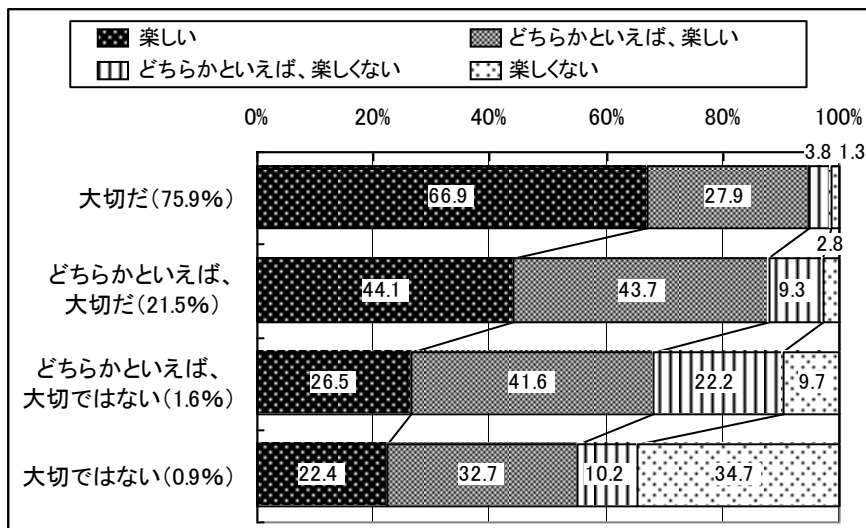
5 学習に対する好感度【問2】 × 家庭学習の内容【問22】



○勉強が「好きだ」と回答した児童の59.3%は、「宿題のほかに毎日勉強する」と回答している。

○「好きではない」と回答した児童の52.7%が宿題のほかに勉強をしている。

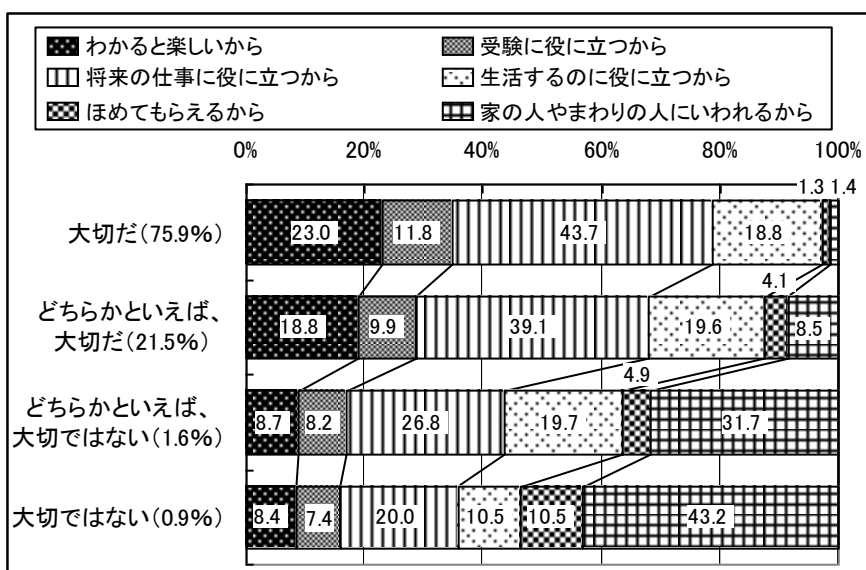
6 学習の必要性【問3】 × 学校生活の楽しさ【問1】



○学習に対する必要性を感じている児童ほど、学校生活を楽しんでいる傾向がある。

○勉強が「大切ではない」と回答した児童のうち、44.9%は学校生活が「楽しくない」、「どちらかといえば、楽しくない」と回答している。

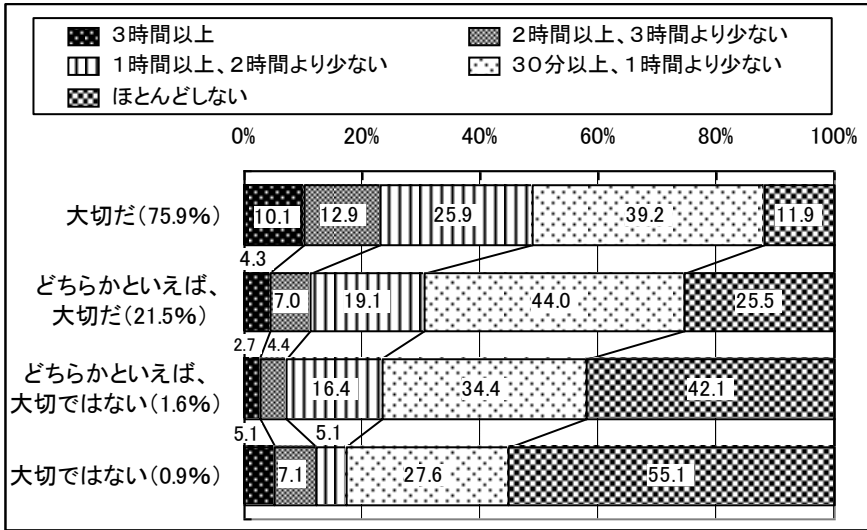
7 学習の必要性【問3】 × 勉強する理由【問4】



○学習に対する必要性を感じている児童ほど、「将来の仕事に役に立つから」や「わかると楽しいから」を勉強する理由に選んでいる割合が高い。

○学習が「大切ではない」と回答した児童のうち、43.2%が勉強する理由として「家の人やまわりの人にいわれるから」を選んでいる。

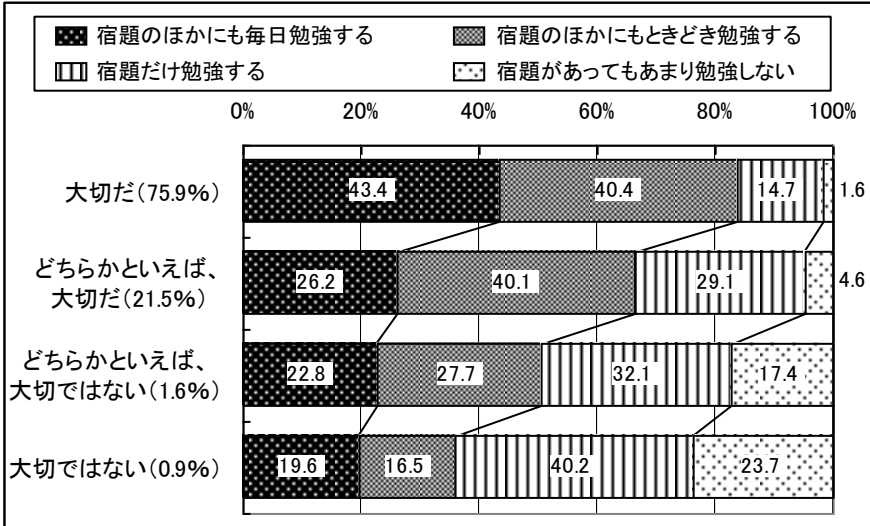
8 学習の必要性【問3】×家庭学習時間（平日）【問20】



○平日に家庭学習をしている割合は、学習に対する必要性を感じている児童ほど高い。

○勉強が「大切だ」、「どちらかといえば、大切だ」と回答した児童の家庭学習時間で一番多いのは、「30分以上、1時間より少ない」である。

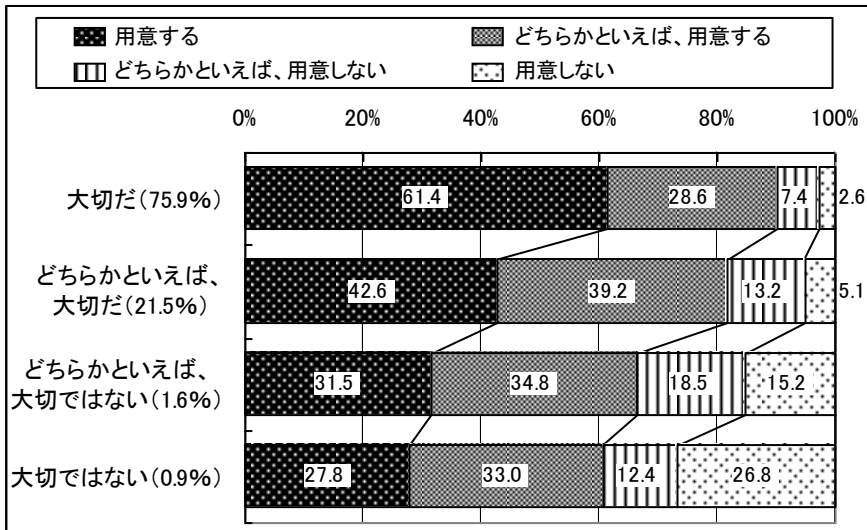
9 学習の必要性【問3】×家庭学習の内容【問22】



○勉強が「大切だ」と回答した児童のうち、83.8%が、宿題のほかに毎日またはときどき勉強すると回答している。

○勉強が「大切ではない」と回答した児童のうちの23.7%は「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

10 学習の必要性【問3】×学習の準備【問26】



○学習に対する必要性を感じている児童ほど、前日に学校の持ち物を準備する傾向が見られる。

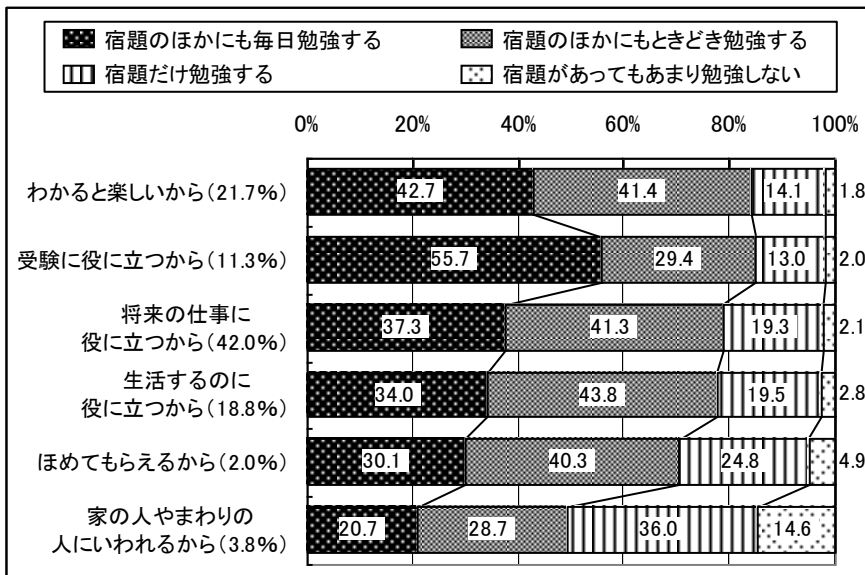
○勉強が「大切だ」と回答した児童の90.0%が、前日に学校の持ち物を「用意する」、「どちらかといえば、用意する」と回答している。

11 勉強する理由【問4】 × 家庭学習時間（平日）【問20】

○勉強する理由として「受験に役に立つから」を選んだ児童は勉強時間が長い傾向がある。

○勉強する理由として「家の人やまわりの人にいわれるから」を選んだ児童の45.9%が、勉強を「ほとんどしない」と回答している。

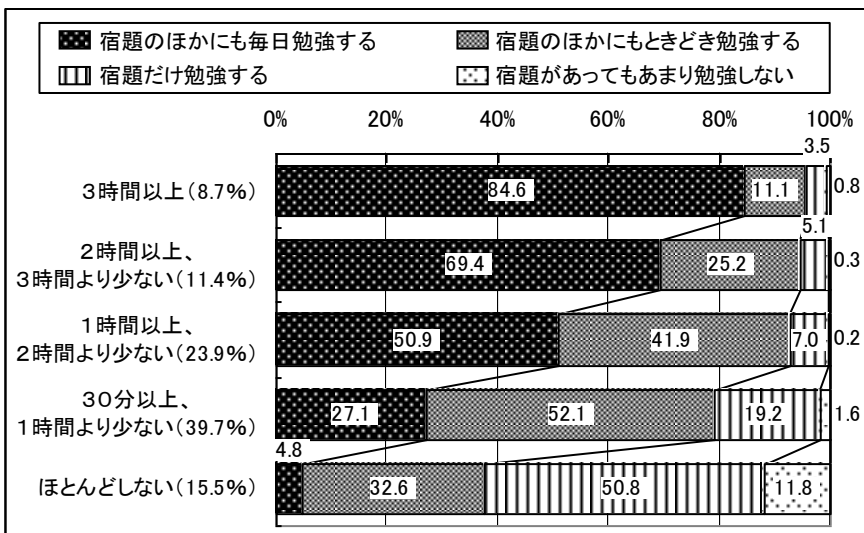
12 勉強する理由【問4】 × 家庭学習の内容【問22】



○「将来の仕事に役に立つから」、「生活するのに役に立つから」と回答した児童のうち、「宿題のほかに毎日勉強する」、「宿題のほかにときどき勉強する」と回答した児童はそれぞれ78.6%、77.8%である。

○「家の人やまわりの人にいわれるから」と回答した児童では、14.6%が「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

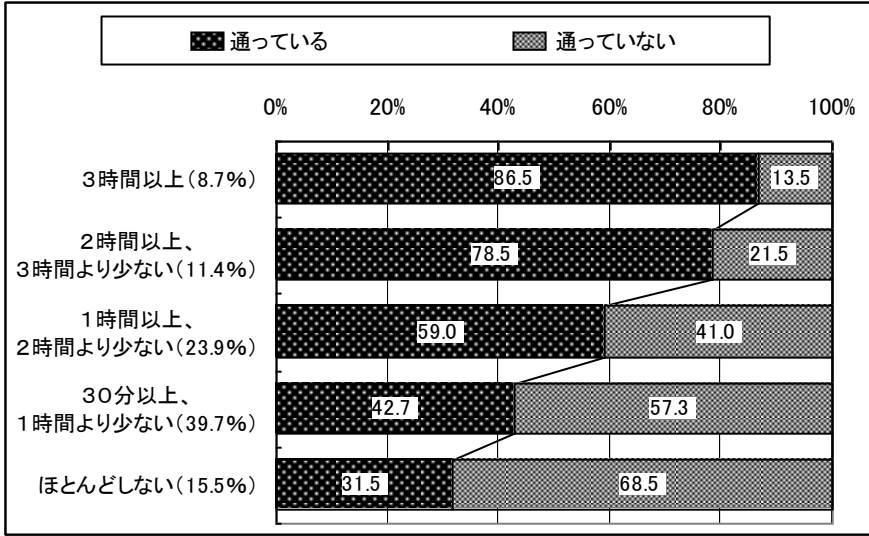
13 家庭学習時間（平日）【問20】 × 家庭学習の内容【問22】



○平日の家庭学習時間が長い児童ほど、宿題のほかに毎日勉強している傾向がある。

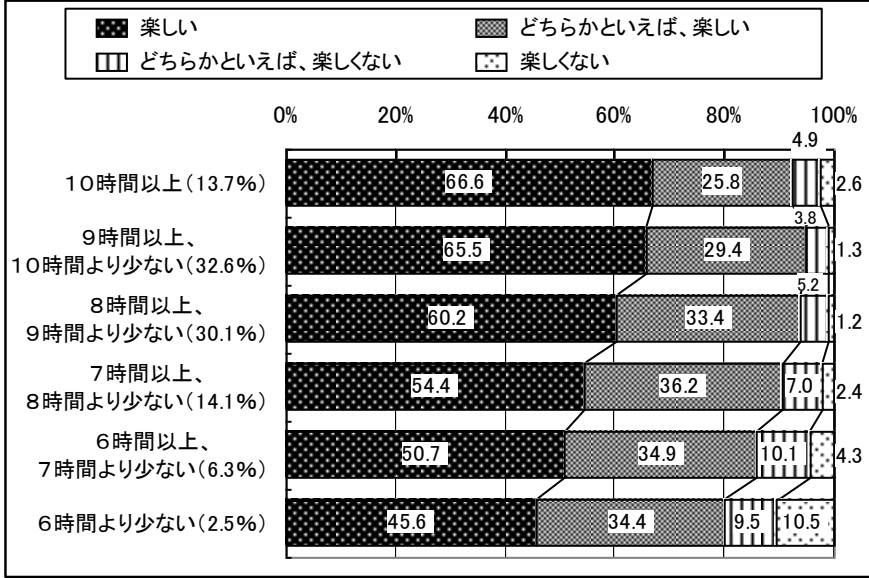
○「ほとんどしない」と回答した児童では50.8%が「宿題だけ勉強する」、11.8%が「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

14 家庭学習時間（平日）【問 20】 × 通塾【問 23】



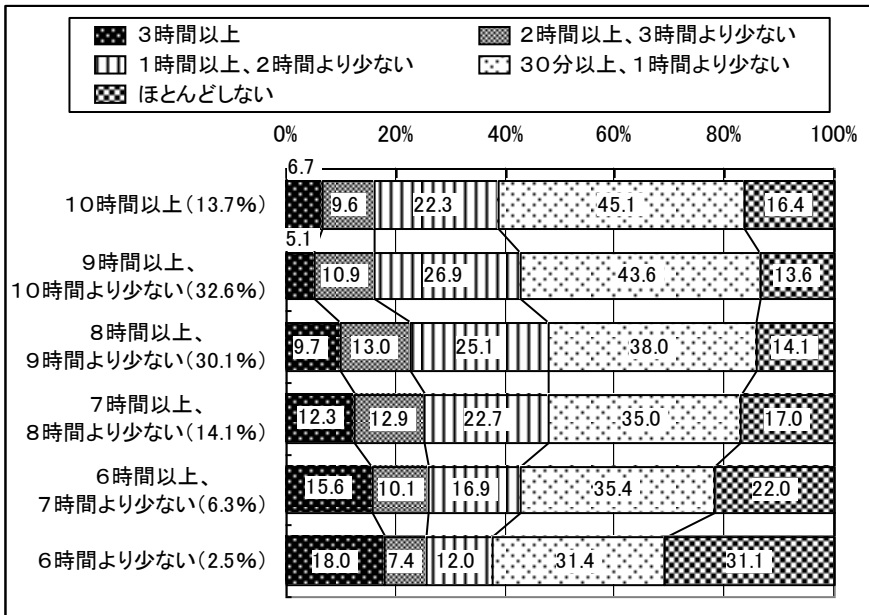
○平日の学習時間が長い児童ほど、学習塾に通っている割合が高い。
 ○家庭学習時間が「3時間以上」、「2時間以上、3時間より少ない」の中で、通塾者の占める割合は、それぞれ 86.5%、78.5% である。

15 睡眠時間【問 24】 × 学校生活の楽しさ【問 1】



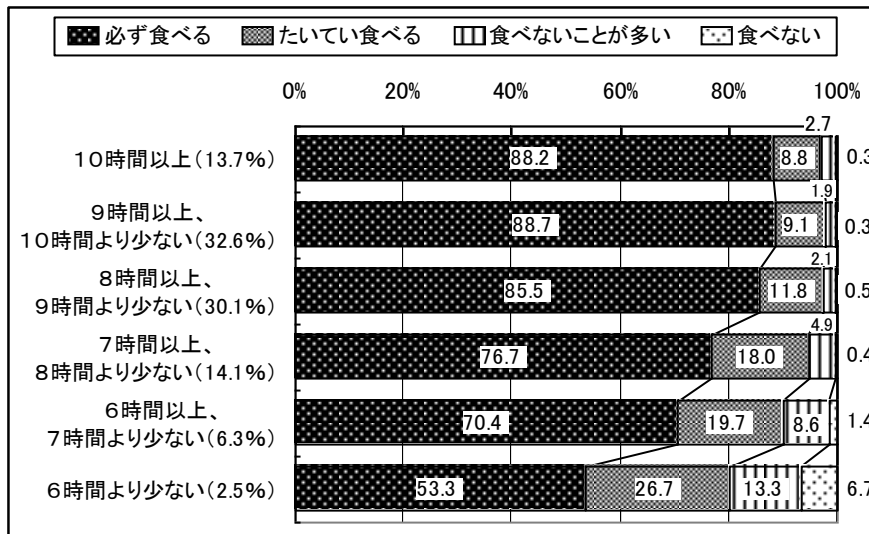
○睡眠時間が長い児童ほど、学校生活が「楽しい」と回答している。
 ○睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した児童の 20.0%が、学校生活は「楽しくない」、「どちらかといえば、楽しくない」と回答している。

16 睡眠時間【問 24】 × 家庭学習時間（平日）【問 20】



○睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した児童の 18.0%が家庭での学習を「3時間以上」と回答していて、どの睡眠時間帯よりも多くなっている。
 ○一方、睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した児童の 31.1%が家庭での学習を「ほとんどしない」と回答している。

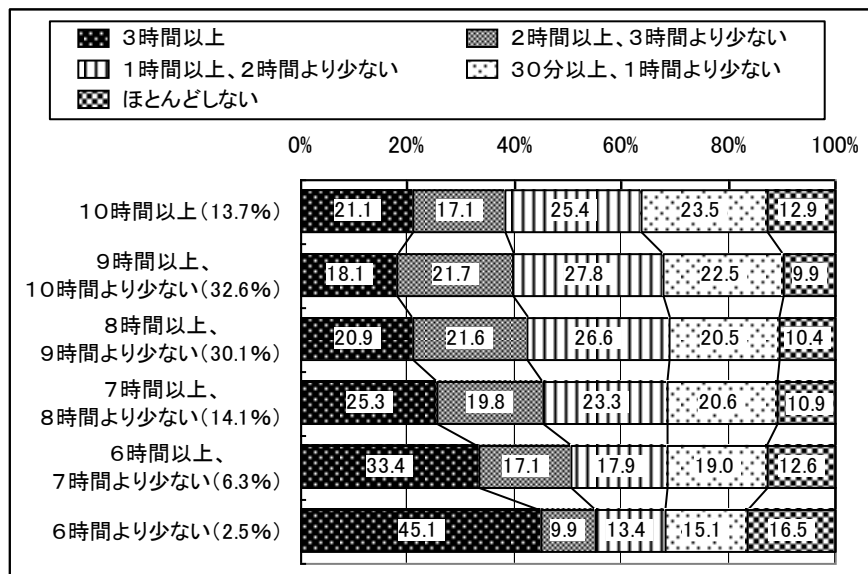
17 睡眠時間【問 24】×朝食の摂取【問 25】



○睡眠時間が8時間以上で、朝食を「必ず食べる」と回答した児童の割合は85%を超えており、朝食の摂取状況が良好な傾向にある。

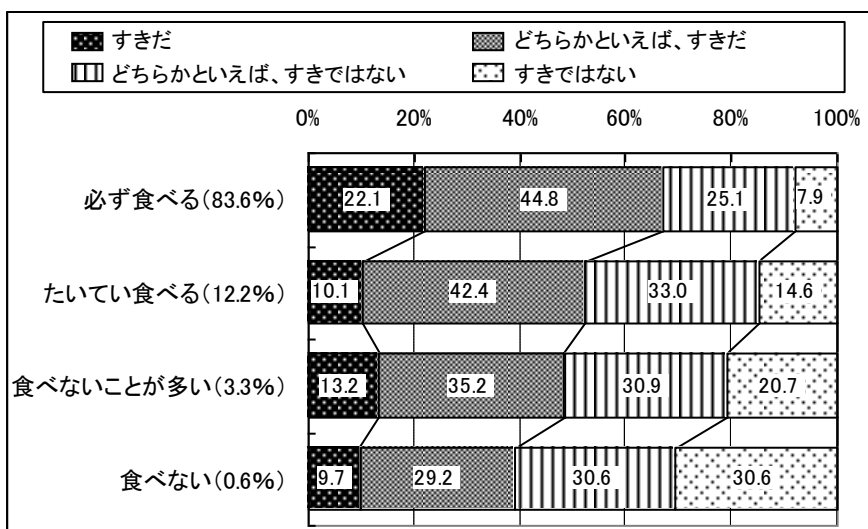
○睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した児童のうち、朝食を「必ず食べる」と回答した児童は53.3%である。

18 睡眠時間【問 24】×テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間 (平日)【問 27】



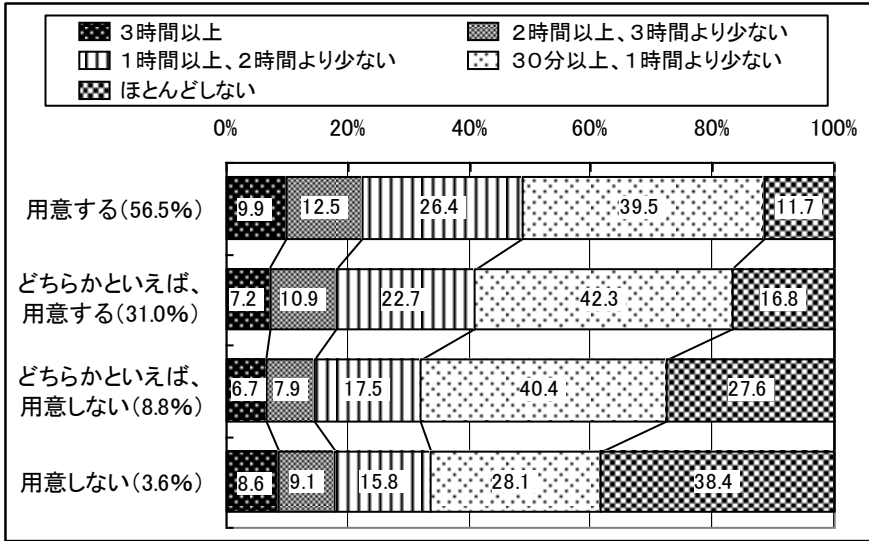
○睡眠時間が「10時間以上」と回答した児童を除くと、睡眠時間が短いほど、テレビの視聴時間などが「3時間以上」、「ほとんどしない」と回答した児童の割合が増え、「2時間以上、3時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」、「30分以上、1時間より少ない」と回答した児童の割合は減る傾向にある。

19 朝食の摂取【問 25】×学習に対する好感度【問 2】



○朝食を「必ず食べる」と回答した児童のうち、勉強が「すきだ」、「どちらかといえば、すきだ」と回答した児童の割合は66.9%であるのに対して、「食べない」と回答した児童のうち、勉強が「すきだ」、「どちらかといえば、すきだ」と回答した児童の割合は38.9%である。

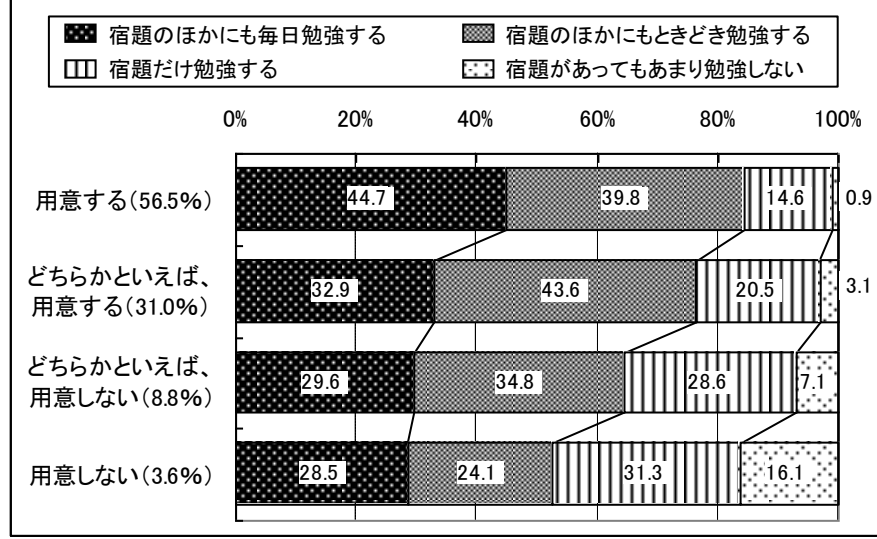
20 学習の準備【問 26】×家庭学習時間（平日）【問 20】



○前日に学校の持ち物を「用意する」と回答した児童の48.8%が、家庭での学習を「1時間以上」と回答しており、他よりも多くなっている。

○「用意しない」と回答した児童のうち、家庭学習を「ほとんどしない」と回答した児童の割合は38.4%である。

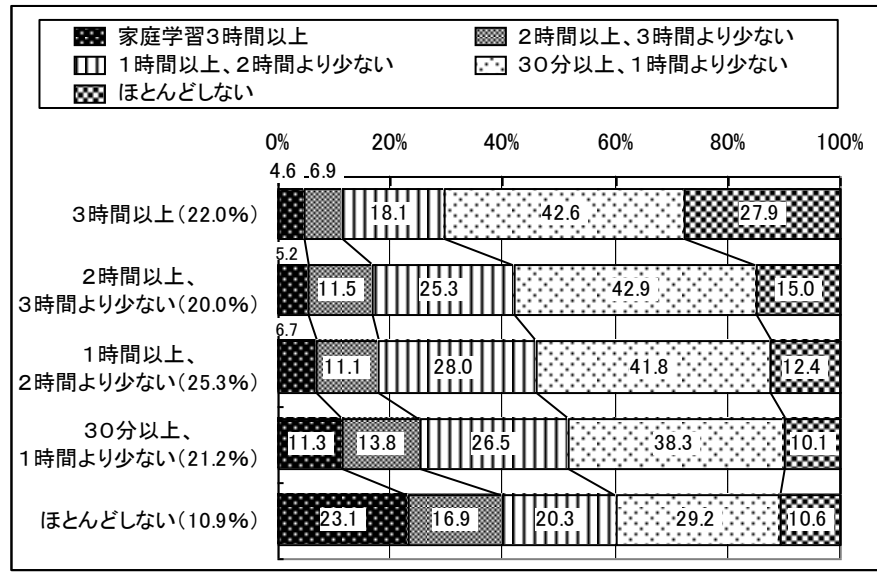
21 学習の準備【問 26】×家庭学習の内容【問 22】



○前日に学校の持ち物を用意する児童ほど、家庭で宿題のほかに勉強している傾向がある。

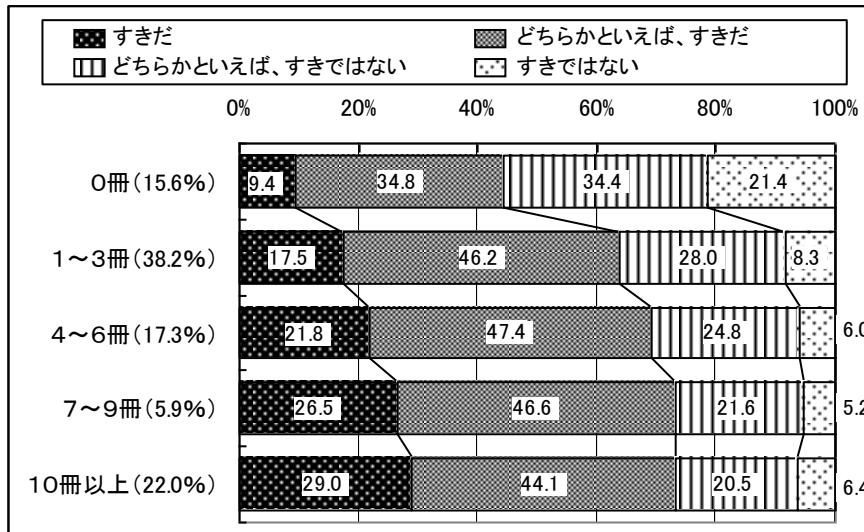
○「用意しない」と回答した児童のうち、「宿題があってもあまり勉強しない」児童の割合は16.1%である。

22 テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間【問 27】×家庭学習時間（平日）【問 20】



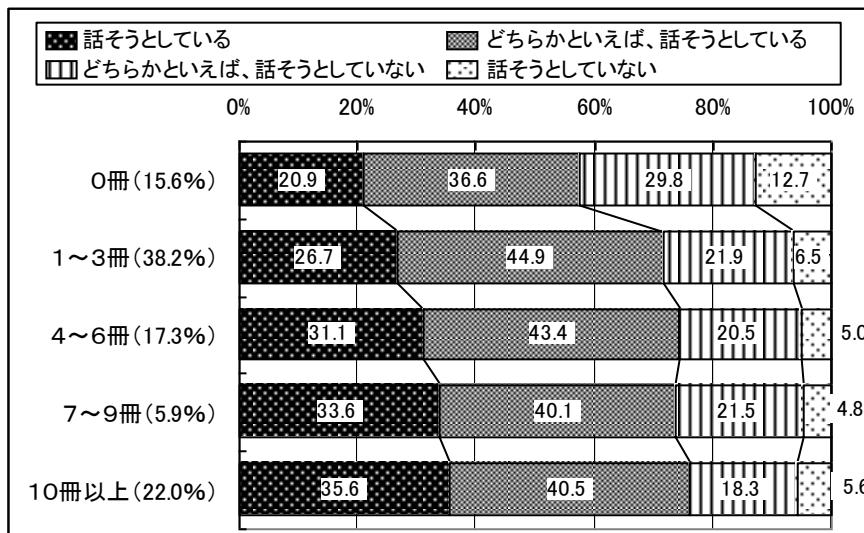
○テレビの視聴時間などが短い児童ほど、平日の家庭学習の時間において「3時間以上」、「2時間以上、3時間より少ない」の割合が高くなり、逆に、視聴時間などが長い児童ほど、家庭学習を「ほとんどしない」割合が高くなる。

23 1ヶ月の読書量【問30】×学習に対する好感度【問2】



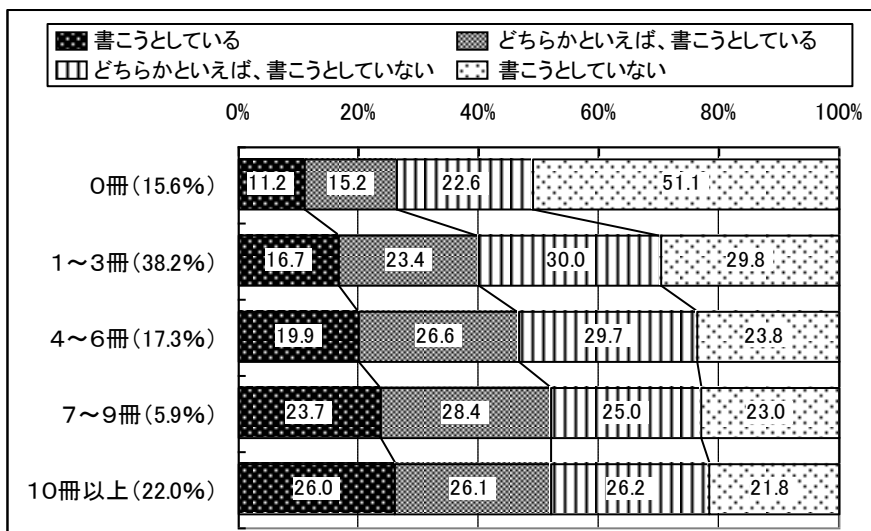
○1ヶ月の読書量が多いほど、勉強が「好きだ」と回答する傾向がある。
 ○1ヶ月の読書量が0冊と回答した児童の55.8%が勉強が「好きではない」、「どちらかといえば、好きではない」と回答している。

24 1ヶ月の読書量【問30】×思いや考えを話そうとする意欲【問32】



○1ヶ月の読書量が多いほど、自分の思いや考えを「話そうとしている」と回答する傾向がある。
 ○1ヶ月に1冊も本を読まない児童のうち、42.5%が、自分の思いや考えを「話そうとしていない」、「どちらかといえば、話そうとしていない」と回答している。

25 1ヶ月の読書量【問30】×思いや考えを書こうとする意欲【問33】



○1ヶ月の読書量が多いほど、自分の思いや考えを文章に「書こうとしている」、「どちらかといえば、書こうとしている」と回答する児童の割合が高い。
 ○1ヶ月に1冊も本を読まない児童のうち、73.7%が自分の思いや考えを「書こうとしていない」、「どちらかといえば、書こうとしていない」と回答している。

資料 調査結果集計表

(数字はすべて%)

【共通】

問1 学校生活は、楽しいですか。

	楽しい	どちらかといえば、 楽しい	どちらかといえば、 楽しくない	楽しくない	無回答
H22	58.9	33.1	5.6	2.3	0.1
H23	59.1	32.9	5.7	2.2	0.1
H24	61.0	31.6	5.4	2.1	0.1

問2 勉強は、好きですか。

	すきだ	どちらかといえば、 すきだ	どちらかといえば、 すきではない	すきではない	無回答
H22	19.6	43.4	27.4	9.5	0.1
H23	19.2	43.4	27.6	9.7	0.1
H24	20.2	44.0	26.3	9.3	0.1

問3 勉強をすることは、大切なことだと思いますか。

	大切だ	どちらかといえば、 大切だ	どちらかといえば、 大切ではない	大切ではない	無回答
H22	74.4	23.4	1.5	0.7	0.1
H23	73.8	23.8	1.6	0.7	0.1
H24	75.9	21.5	1.6	0.9	0.1

問4 勉強をする一番の理由は何ですか。

	わかると楽し いから	受験に役に立 つから	将来の仕事に 役に立つから	生活するのに 役に立つから	ほめてもらえ るから	家の人やまわ りの人にいわ れるから	無回答
H22	24.0	10.1	38.8	20.8	2.3	3.5	0.4
H23	24.1	11.0	38.7	19.6	2.3	3.9	0.4
H24	21.7	11.3	42.0	18.8	2.0	3.8	0.5

問5～9 次の学習は好きですか。

		すきだ	どちらかといえ ば、すきだ	どちらかといえ ば、すきではない	すきではない	無回答
国語	H22	29.2	40.2	21.8	8.2	0.6
	H23	28.9	39.6	22.1	8.7	0.7
	H24	28.2	40.2	22.6	8.3	0.7
社会	H22	26.2	34.6	26.5	12.1	0.6
	H23	23.4	34.0	28.3	13.4	0.8
	H24	27.8	34.8	25.2	11.4	0.9
算数	H22	35.8	29.6	19.6	14.1	0.9
	H23	35.3	30.2	19.7	13.7	1.0
	H24	37.6	30.1	18.9	12.6	0.9
理科	H22	51.7	31.7	10.9	4.5	1.1
	H23	51.6	31.3	11.0	4.6	1.5
	H24	53.8	30.6	10.7	3.9	1.0
総合	H22	42.8	37.9	12.8	4.5	1.9
	H23	41.5	38.3	13.4	4.6	2.1
	H24	41.8	37.5	12.1	4.1	4.5

問 10～13 次の授業は、よくわかりますか。

		わかる	どちらかといえば、わかる	どちらかといえば、わからない	わからない	無回答
国語	H22	55.9	35.2	6.7	1.8	0.5
	H23	54.7	36.0	6.8	2.0	0.5
	H24	54.6	36.3	6.8	1.7	0.6
社会	H22	44.6	39.2	12.6	3.0	0.7
	H23	40.4	39.8	15.3	3.8	0.6
	H24	44.8	37.9	13.5	3.1	0.7
算数	H22	50.4	32.0	11.9	5.1	0.6
	H23	51.4	31.5	12.2	4.3	0.6
	H24	53.0	31.5	10.6	4.2	0.8
理科	H22	62.3	30.4	5.5	1.2	0.6
	H23	61.9	30.7	5.5	1.3	0.5
	H24	63.6	29.0	5.3	1.4	0.7

問 14～18 授業で学んだことは、生活の中で役に立っていると思いますか。

		役に立つ	どちらかといえば、役に立つ	どちらかといえば、役に立たない	役に立たない	無回答
国語	H22	60.6	30.7	6.1	2.1	0.6
	H23	59.6	31.1	6.5	2.1	0.6
	H24	60.9	30.5	6.1	1.8	0.7
社会	H22	55.5	32.8	8.6	2.4	0.6
	H23	54.4	33.1	9.0	2.8	0.7
	H24	56.3	31.8	8.7	2.4	0.8
算数	H22	73.8	20.6	3.4	1.4	0.7
	H23	74.0	20.4	3.3	1.5	0.8
	H24	73.7	20.8	3.4	1.3	0.8
理科	H22	46.9	36.8	12.4	3.0	0.9
	H23	46.6	37.7	11.5	3.0	1.1
	H24	49.7	36.3	10.1	2.8	1.0
総合	H22	46.2	36.7	10.6	3.7	2.8
	H23	44.8	37.4	11.1	3.7	3.0
	H24	47.2	35.8	9.4	3.4	4.2

問 19 授業の中で、わからないことがあったら、どうすることが多いですか。

	その場で先生にたずねる	授業が終わってから先生にたずねる	友だちにたずねる	家の人にたずねる	じゆくや家庭教師の先生にたずねる	自分で調べる	そのままにしておく
H22	43.8	28.4	65.4	71.6	15.5	47.5	23.8
H23	41.7	26.7	64.6	70.9	15.5	47.4	21.2
H24	41.3	26.8	65.6	72.2	15.7	45.9	21.8

問 20 学校のある日、家で1日どのくらい勉強しますか。

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	ほとんどしない	無回答
H22	8.4	10.9	24.7	38.7	16.3	0.9
H23	8.1	11.3	24.0	40.0	15.5	1.1
H24	8.7	11.4	23.9	39.7	15.5	0.8

II 調査結果の概要

問 21 学校が休みの日、家で1日どのくらい勉強しますか。

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	ほとんどしない	無回答
H22	12.0	11.9	20.5	31.0	23.6	0.9
H23	12.3	11.5	20.4	31.6	23.4	0.9
H24	12.4	11.2	19.9	31.7	24.2	0.8

問 22 ふだん、家でしている勉強は、どれに近いですか。

	宿題のほかに毎日勉強する	宿題のほかにときどき勉強する	宿題だけ勉強する	宿題があってもあまり勉強しない	無回答
H22	37.1	41.2	17.7	3.1	0.9
H23	38.0	40.5	17.4	3.0	1.1
H24	38.8	39.6	18.1	2.7	0.9

問 23 学習じゆくに、通っていますか。

	通っている	通っていない	無回答
H22	51.2	47.5	1.4
H23	51.5	47.3	1.2
H24	52.4	46.8	0.8

問 24 学校がある日の、睡眠時間はどれくらいですか。

	10時間以上	9時間以上、10時間より少ない	8時間以上、9時間より少ない	7時間以上、8時間より少ない	6時間以上、7時間より少ない	6時間より少ない	無回答
H22	12.3	32.9	30.0	15.6	5.9	2.4	0.8
H23	12.9	32.8	30.7	14.3	6.0	2.4	0.9
H24	13.7	32.6	30.1	14.1	6.3	2.5	0.7

問 25 毎日、朝食を食べますか。

	必ず食べる	たいてい食べる	食べないことが多い	食べない	無回答
H22	83.3	12.9	3.1	0.6	0.1
H23	84.1	12.4	2.9	0.4	0.2
H24	83.6	12.2	3.3	0.6	0.2

問 26 学校に持って行くものは、前日にきちんと用意しますか。

	用意する	どちらかといえば、用意する	どちらかといえば、用意しない	用意しない	無回答
H22	55.8	30.7	9.7	3.6	0.2
H23	55.3	31.2	9.6	3.6	0.3
H24	56.5	31.0	8.8	3.6	0.2

問 27 学校のある日、家でどのくらいテレビやビデオを見たり、ゲーム機で遊んだりしていますか。

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	ほとんどしない	無回答
H22	19.9	20.4	26.5	21.7	11.0	0.5
H23	20.5	19.7	26.1	22.1	11.0	0.5
H24	22.0	20.0	25.3	21.2	10.9	0.5

問 28 学校が休みの日、家でどのくらいテレビやビデオを見たり、ゲーム機で遊んだりしていますか。

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	ほとんどしない	無回答
H22	30.9	21.4	24.3	15.2	7.9	0.3
H23	31.5	21.7	23.4	15.2	7.7	0.5
H24	33.8	21.4	23.0	14.5	6.9	0.4

問 29 自分専用の携帯電話を持っていますか。

	持っている	持っていない	無回答
H22	34.5	65.3	0.2
H23	34.7	64.9	0.4
H24	43.0	56.7	0.2

問 30 月に何さつぐらい本（マンガ・雑誌をのぞく）を読みますか。[*31冊以上の回答は集計から除外]

	0冊	1～3冊	4～6冊	7～9冊	10冊以上	無回答	平均冊数
H22	14.2	42.4	17.2	5.7	20.2	0.3	5.1
H23	14.8	40.9	16.5	5.3	21.9	0.6	5.4
H24	15.6	38.2	17.3	5.9	22.0	1.0	5.4

【国語】

問 31 わからない言葉があるときは国語辞典（電子辞書をふくみます）を使いますか。

	よく使う	どちらかといえば、よく使う	どちらかといえば、あまり使わない	あまり使わない	無回答
H22	25.4	32.8	25.4	16.2	0.2
H23	26.2	33.4	24.5	15.6	0.2
H24	26.1	34.4	23.6	15.7	0.2

問 32 日常生活の中で、自分の思いや考えを積極的に話そうとしていますか。

	話そうとしている	どちらかといえば、話そうとしている	どちらかといえば、話そうしていない	話そうしていない	無回答
H22	27.2	41.8	23.8	7.0	0.2
H23	28.4	41.9	22.3	7.1	0.3
H24	29.1	41.9	21.9	6.9	0.2

問 33 日記を書くなど、自分の思いや考えを文章に書こうとしていますか。

	書こうとしている	どちらかといえば、書こうとしている	どちらかといえば、書こうしていない	書こうしていない	無回答
H22	18.0	22.8	29.2	29.9	0.1
H23	18.4	23.8	28.5	29.1	0.3
H24	19.0	23.6	27.5	29.6	0.2

【社会】

問 34 わからない地名に出会ったら、自分で地図帳などを使って調べますか。

	調べようとしている	どちらかといえば、調べようとしている	どちらかといえば、調べようしていない	調べようしていない	無回答
H22	30.0	33.4	22.8	13.7	0.2
H23	26.6	33.0	25.0	15.2	0.2
H24	27.0	32.7	24.7	15.4	0.2

問 35 歴史上の人物やできごとをあつかっている本を読むことは好きですか。

	好きだ	どちらかといえば、好きだ	どちらかといえば、好きではない	好きではない	無回答
H22	28.9	24.0	25.3	21.7	0.1
H23	27.3	24.4	25.7	22.3	0.3
H24	28.5	25.1	24.6	21.7	0.1

II 調査結果の概要

問 36 社会のできごとやニュースに関心がありますか。

	関心がある	どちらかといえば、 関心がある	どちらかといえば、 関心がない	関心がない	無回答
H22	29.0	38.3	22.2	10.4	0.1
H23	31.8	40.0	19.6	8.4	0.2
H24	33.2	39.6	18.3	8.6	0.2

【算数】

問 37 算数の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことはすきですか。

	すきだ	どちらかといえば、 すきだ	どちらかといえば、 すきではない	すきではない	無回答
H22	24.1	28.5	30.9	16.3	0.1
H23	23.8	29.1	30.5	16.3	0.3
H24	24.2	30.1	29.5	16.1	0.2

問 38 問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか。

	考えようとしてい る	どちらかといえば、 考えようとしてい る	どちらかといえば、 考えようとしてい ない	考えようとしてい ない	無回答
H22	26.0	34.5	25.5	13.9	0.2
H23	26.4	34.3	25.5	13.5	0.3
H24	28.3	34.1	24.1	13.2	0.2

問 39 問題が解けなかったとき、なぜ解けなかったかをふり返って考えようとしていますか。

	考えようとしてい る	どちらかといえば、 考えようとしてい る	どちらかといえば、 考えようとしてい ない	考えようとしてい ない	無回答
H22	27.1	36.6	23.4	12.8	0.1
H23	27.7	37.5	22.7	11.8	0.3
H24	27.5	37.1	23.5	11.7	0.2

【理科】

問 40 理科の勉強で、実験や観察をすることはすきですか。

	すきだ	どちらかといえば、 すきだ	どちらかといえば、 すきではない	すきではない	無回答
H22	69.6	21.1	6.1	3.0	0.2
H23	68.1	21.6	7.0	3.1	0.3
H24	69.9	20.5	6.4	3.0	0.2

問 41 理科の勉強で、わからないことや興味・関心をもったことについて自分から調べようとしていますか。

	調べようとしてい る	どちらかといえば、 調べようとしてい る	どちらかといえば、 調べようとしてい ない	調べようとしてい ない	無回答
H22	27.9	37.8	25.1	9.1	0.1
H23	27.7	38.5	25.1	8.4	0.3
H24	28.1	37.9	24.7	9.2	0.2

問 42 自然や理科についての読み物や図かん、テレビ番組などをよくみていますか。

	よくみている	どちらかといえば、 よくみている	どちらかといえば、 あまりみていない	あまりみていない	無回答
H22	29.1	27.0	26.7	17.1	0.2
H23	29.5	28.2	26.4	15.6	0.3
H24	30.2	27.6	26.3	15.7	0.2

【総合的な学習】

問 43 自分の興味や疑問をもったことを自分のやり方で学習できていると思いますか。

	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば、 そう思わない	思わない	無回答
H22	20.0	45.6	26.4	7.8	0.1
H23	21.4	45.8	25.7	6.9	0.3
H24	22.2	46.4	23.9	7.2	0.3

問 44 情報の集め方や調べ方がわかるようになったと思いますか。

	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば、 そう思わない	思わない	無回答
H22	32.6	42.9	18.0	6.4	0.2
H23	32.2	42.5	18.9	6.0	0.3
H24	33.6	42.0	18.1	6.0	0.2

問 45 自分が興味をもったことをもっと調べてみたいと思うことがありますか。

	思うことがある	どちらかといえば、 思うことがある	どちらかといえば、 思うことはない	思うことはない	無回答
H22	47.5	31.3	15.4	5.7	0.2
H23	46.8	32.7	14.7	5.5	0.3
H24	48.9	31.8	13.5	5.6	0.2

Ⅲ 資料編

国語

問題用紙・聞き取り問題原稿・解答用紙

算数

問題用紙・解答用紙